

持続型職業人SOZOプロジェクト  
プロジェクト活動 成果発表会

平成 23 年 12 月 22 日

豊橋創造大学

情報ビジネス学部



# 持続型職業人 SOZO プロジェクト

## 情報ビジネス学部 プロジェクト活動 成果発表会

日時:平成 23 年 12 月 22 日(木) 4限~5限

場所:豊橋創造大学 B14教室

次第:

14:50 ~ 開会

14:50 ~ 学部長挨拶

プロジェクト主旨説明

15:00 ~ プロジェクト発表

<第1セッション>

順番	発表時間	プロジェクト	プロジェクトテーマ
1	14:55 ~ 15:03	石田プロジェクト	外食産業におけるロジスティクス・システムの研究
2	15:07 ~ 15:15	今井久プロジェクト	福祉施設で紙芝居
3	15:19 ~ 15:24	今井正プロジェクト	ビジネス系学生のための情報処理資格に向けた電子コンテンツの改善活動
4	15:28 ~ 15:36	見目プロジェクト	豊橋市内小中学校の太陽光発電システムの稼働状況調査
5	15:40 ~ 15:45	中野一プロジェクト	会計事務所の業務内容と組織の仕組みを知る
6	15:49 ~ 15:57	中野聡プロジェクト	社会的企業の実証研究
7	16:01 ~ 16:06	花岡プロジェクト	豊橋筆プロジェクト

<第2セッション>

順番	発表時間	プロジェクト	プロジェクトテーマ
8	16:20 ~ 16:28	三好プロジェクト	豊橋自慢企業のトップインタビュープロジェクト
9	16:32 ~ 16:40	三輪プロジェクト	学食広報プロジェクト by 学食おうえん団
10	16:44 ~ 16:49	森田プロジェクト	東三河における繊維産業
11	16:53 ~ 16:58	山口プロジェクト	炎の祭典支援プロジェクト
12	17:02 ~ 17:07	吉川・片岡プロジェクト	東三河 Bible
13	17:11 ~ 17:19	五味プロジェクト	認定試験に受かるための学習環境と運営

17:25 ~ 学長挨拶

17:30 ~ 閉会

17:30 ~ 事務連絡

17:50 ~ 懇親会及び表彰式

18:30 ~ 終了

以上

# 豊橋創造大学 情報ビジネス学部 プロジェクト成果発表会

## 参加者名簿

### 【来賓】

敬称略順不同

会社名	役職名	氏名
(株)サーラコーポレーション	総務部	鈴木 三博
(株)サイエンスクリエイト	インキュベーション事業部次長	齋藤 敏
豊橋商工会議所	青年部 炎の祭典委員会 委員長	佐野 大輔
豊橋商工会議所	青年部 炎の祭典委員会 副委員長	白井 成明
豊橋商工会議所	青年部 炎の祭典委員会 副委員長	西崎 宏軌
豊橋商工会議所	青年部 炎の祭典委員会 副委員長	藤田 修一郎
豊橋市企画部政策企画課	主査	増田 明
日本ゼネラルフード(株)		
(株)ブレインシティ	代表取締役	市原 清志
本多電子(株)	代表取締役	本多 洋介
ヤマサちくわ(株)	総務部 総務課長	早川 尚宏
(株)ワルツ	本社 外食営業部 統括マネジャー	河口 峰夫
(株)ワルツ	本社 広域グループチームリーダー	石原 浩司

### 【本学教員】

所属	役職	氏名
豊橋創造大学	学長	伊藤 晴康
情報ビジネス学部キャリアデザイン学科	学部長	佐藤 勝尚
情報ビジネス学部キャリアデザイン学科	学科長	三好 哲也
情報ビジネス学部キャリアデザイン学科	教授	石田 宏之
情報ビジネス学部キャリアデザイン学科	教授	今井 正文
情報ビジネス学部キャリアデザイン学科	教授	片岡 眞吾
情報ビジネス学部キャリアデザイン学科	教授	見目 喜重
情報ビジネス学部キャリアデザイン学科	教授	島田 大助
情報ビジネス学部キャリアデザイン学科	教授	中野 一豊
情報ビジネス学部キャリアデザイン学科	教授	中野 聡
情報ビジネス学部キャリアデザイン学科	教授	森田 和正
情報ビジネス学部キャリアデザイン学科	教授	吉川 優
情報ビジネス学部キャリアデザイン学科	准教授	今井 久登
情報ビジネス学部キャリアデザイン学科	准教授	加藤 尚子
情報ビジネス学部キャリアデザイン学科	准教授	五味 悠一郎
情報ビジネス学部キャリアデザイン学科	准教授	花岡 幹明
情報ビジネス学部キャリアデザイン学科	准教授	三輪 多恵子
情報ビジネス学部キャリアデザイン学科	講師	山口 満

【持続型職業人 SOZO フォロワー委員会メンバーほか】

所属	役職	氏名
キャリアアップランニング科	科長	今泉 仁志
キャリアアップランニング科	教授	千賀 博巳
キャリアアップランニング科	講師	細谷 邦夫
事務局	局長	前川 文男
渉外部	部長	中村 隆三
渉外部	次長	村松 史子
渉外部	キャリアセンター室長	伊藤 欣也
渉外部	キャリアセンター主任	富安 奈々
教学部	教務課長	佐々木 令
教学部	教務課係長	遠山 直人
教学部	教務課主任	増田 勝文
教学部	教務課	桐木 道彦
嘱託講師		村松 東
嘱託職員		和田 利子

## 豊橋創造大学情報ビジネス学部 プロジェクト連携企業・団体一覧

愛知県三河繊維技術センター

NPO 法人 インターネットラーニングアカデミー

(株)エフエム豊橋

小畑耕一公認会計士事務所

(株)キューソー流通システム 春日井営業所

(株)サイエンスクリエイト

(株)サーラコーポレーション

(医)豊岡会

豊橋市教育委員会

豊橋市企画部政策企画課

豊橋市産業部産業政策課

(福)豊橋市社会福祉協議会

豊橋市総合福祉センター あいトピア

豊橋市立章南中学校

豊橋市立青陵中学校

豊橋市立東部中学校

豊橋市立東陵中学校

豊橋市立南稜中学校

豊橋市立羽田中学校

豊橋市立豊城中学校

豊橋市立北部中学校

豊橋市立吉田方中学校

豊橋市立植田小学校

豊橋市立老津小学校

豊橋市立大崎小学校

豊橋市立新川小学校

豊橋市立杉山小学校

豊橋市立鷹丘小学校

豊橋市立津田小学校

豊橋市立つつじヶ丘小学校

豊橋市立福岡小学校

豊橋商工会議所 三遠南信地域社会雇用創造事業

豊橋商工会議所 社会起業インキュベーション事業

豊橋商工会議所 青年部 炎の祭典委員会

南部デイサービスセンター

日本ゼネラルフード(株)

東三河障がい者しごとセンター

広島国際大学

ヒロタ(株)

(株)平松食品

(福)福寿園 昭和の里

(有)筆匠 榊原

(株)ブレインシティ

本多電子(株)

ヤマサちくわ(株)

老人保健施設 明陽苑

(株)ワルツ

(敬称略順不同)

# 活動報告書

## 目次

- P. 1 石田プロジェクト 「外食産業におけるロジスティクス・システムの研究」
- P. 5 今井(久)プロジェクト 「福祉事業支援」
- P. 8 今井(正)プロジェクト 「ビジネス系学生のための情報処理資格に向けた  
電子コンテンツの改善方法」
- P. 12 見目プロジェクト 「豊橋市内小中学校の太陽光発電システムの  
稼働状況調査」
- P. 16 中野(一)プロジェクト 「会計事務所の業務内容と組織」
- P. 18 中野(聡)プロジェクト 「社会的企業の実証研究」
- P. 21 花岡プロジェクト 「豊橋筆プロジェクト」
- P. 24 三好プロジェクト 「豊橋自慢企業のトップインタビュープロジェクト」
- P. 28 三輪プロジェクト 「学食広報プロジェクト by 学食おうえん団」
- P. 34 森田プロジェクト 「東三河における繊維産業」
- P. 37 山口プロジェクト 「炎の祭典支援プロジェクト」
- P. 41 吉岡・片岡プロジェクト 「東三河 Bible」
- P. 43 五味プロジェクト 「認定試験に受かるための学習環境構築と運営」



## 「外食産業におけるロジスティクス・システムの研究」

——(物語コーポレーションを事例に)——

### I. プロジェクトメンバー

リーダー: 山田十五

メンバー: 井垣翔太、洞口貴紀、野間洋佑

指導者: 石田宏之

### II. プロジェクト概要(目的)

本プロジェクトの目的は、

一つ目が、株式会社物語コーポレーション(以下『物語』と略す)を事例として、食材の仕入れから各店舗へ食材が供給(納品)されるまでの『情報の流れ』と『ものの流れ』の実態を調査することにより、ロジスティクス・システムが『物語(企業)』に対して果している役割と機能を分析することである。

二つ目が、プロジェクト活動を通し、①メモの取り方・要約の仕方、②テーマの進め方、③分析力・理解力、④問題発見能力(本プロジェクトでは、これらを就業力基礎能力とする)を習得するとともに、協力企業との交渉、ヒアリング調査、施設見学を通して、①挨拶・応答態度②コミュニケーション能力、③リーダーシップ、④報告・連絡・相談(本プロジェクトでは、これらを社会人基礎能力とする)を養うことである。

### III. 連携先企業(調査対象企業)

調査対象企業は、『物語』(本社購買部、店舗、麺工場)、ロジスティックの機能を委託しているワルツ株式会社(以下ワルツと略す)および株式会社キューソー流通システムの春日井流通センター(以下 KRS と略す)である。

『物語』(本社:愛知県豊橋市神野新田町二ノ割 1)は、焼肉、ラーメン及びお好み焼レストランチェーン、専門店の直営による経営とフランチャイズチェーンを全国展開している外食産業であり、従業員数 社員 427 名 時間制従業員 3,569 名(2011 年 6 月 30 日現在)である。

『ワルツ』(愛知県豊橋市神野新田町二ノ割 1)は、カフェ、喫茶店、ホテル、レストラン、洋菓子店等へのコーヒーをはじめ、紅茶、製菓・製パンの材料、食材、器材、直輸入品の卸および小売販売並びに提案営業を行っている会社であり、フライチャイズビジネスとして「焼肉一番カルビ」、「焼肉きんぐ」、「丸源ラーメン」などを経営し、『物語』のロジスティクス機能が全て委託されている会社である。

『KRS』の春日井流通センター(愛知県春日井市神屋町字地福 1218-11)は、『物語』の食材等の保管・在庫および各店舗への配送が『ワルツ』から委託されている企業である。

### IV. 活動内容

#### 1. ロジスティクス・システムの役割

企業におけるロジスティクスの役割は、製造業・卸売業では買手、小売業では店舗が求める物流ニーズに応えるための顧客サービスを提供し、競争優位のひとつとしての「ロジスティクス力」を構築することである。

ロジスティクスでいう「顧客サービス」とは、注文充足率(品切れを起こさない確率)、リードタイム(発注してから納品されるまでの時間)、ロットサイズ(注文の単位)、配送頻度などを指す。

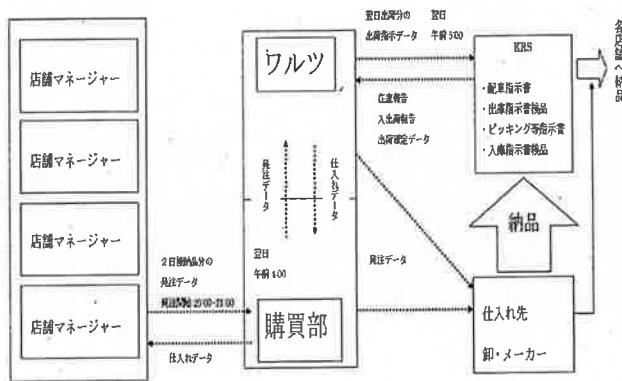
これらサービスのそれぞれの水準を定め、それを前提に「必要なとき、必要なものを、必要な量」だけ届けるための仕組みが、ロジスティクス・システム(仕組み)である。それを実現するための物流の 6 つの機能(輸送、荷役、包装、保管・在庫、流通加工、物流情報)を実施する拠点が、物流拠点(流通センター)である。

#### 2. 物語コーポレーションのロジスティクス・システム

##### ① 発注から納品までの情報の流れ

各店舗からの発注をワルツで集約しメーカー・卸等に一括仕入れし、KRS から店舗まで食材が納品されるまでの「情報の流れ」は図-1 に示すとおりである。

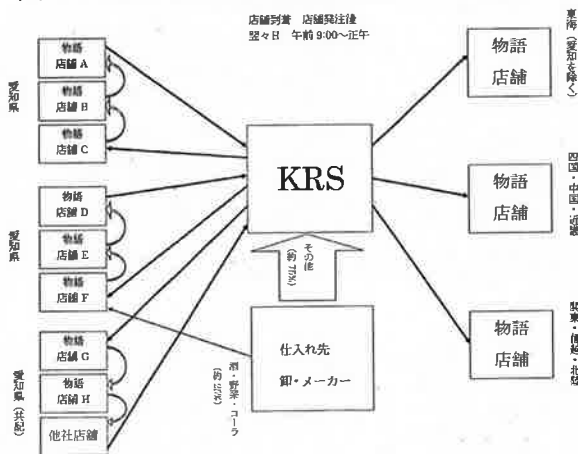
図-1 店舗発注から納品までの情報の流れ



② 仕入先から店舗までの食材物流の流れ

仕入れられた食材が、KRS 他から各店舗まで納品される「ものの流れ」は図-2 に示すとおりである。

図-2 KRS から各店舗納品までの物の流れ



③ 流通センター(KRS)の作業のしくみ

KRS における入荷から出荷までの物流の6つの機能(なお、流通加工は、店舗で実施している)に伴う作業の流れは図-3 の通りである。

④ 在庫管理

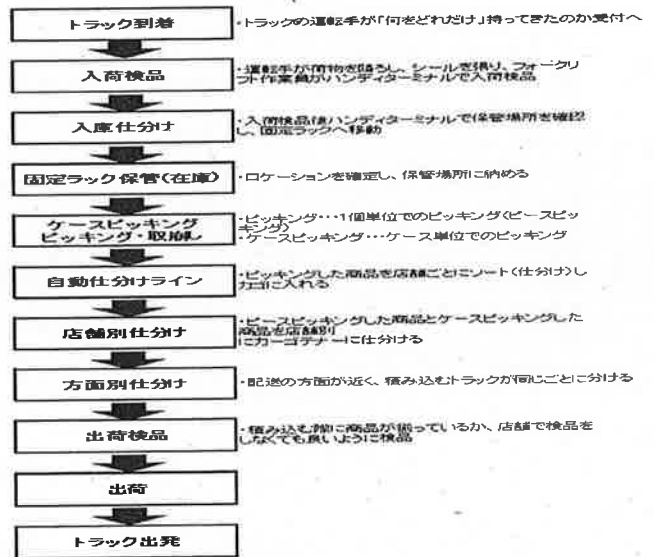
『物語』における在庫(食材に限る)は、各店舗とKRSの2か所に存在し、店舗在庫は店舗でKRS在庫はワルツが管理している。

1)各店舗での在庫管理

店舗の在庫量は、2.5日分で1日分はその日

に使用する在庫。もう1日分は冷凍食品を解凍・調理(流通加工)するための在庫、0.5日分は品切れを起こさないようにするための安全在庫である。

図-3 KRS 流通センターの作業フロー



日々の発注は、POSデータをレシピ分解(注1)し、次にPI値(注2)を割りだしあらかじめ設定されている在庫管理の指標と掛け合わせ、現在保有している在庫と差し引いて発注量を決定する。

(注1)レシピ分解とは、一つのメニューに使用されている食材の量(ネギ~g、麺~gなど)ごとに分けることである。

(注2)PI値とは、客一人当たりの注文構成比のこと。例えばラーメンが何人に対し何杯販売されているかを%表示することである。

2)KRS(全店舗分)の在庫管理

KRSの在庫管理は、全てワルツが独自の在庫管理システムを確立し各店舗の発注に対応している。また、ワルツはその際に集約した店舗発注量とKRS在庫の2つを調整し、一括仕入れして各店舗の発注に対応できるように、在庫量の管理および仕入れ量を調整している。

3. 『物語』におけるロジスティクス・システムの役割と機能

今回調査したロジスティクス・システムの『物語』に果している役割・機能を列挙すると以下の通りである。

### ① 店舗が求める顧客サービスの役割と機能

・ 仕組みの前提となる顧客サービスの水準は、注文充足率ほぼ 100%、リードタイム 2 日、ロットサイズはピース単位、配送頻度は週 6 日と設定した。

・ 店舗マネジャーの采配で、品切れ品目を起こさないように売れるだけの食材等を仕入れるようにしており、食材の安定供給と機会損失を最小限に抑えている。

・ リードタイムを 2 日に設定し、在庫に余裕を持たせ、品切れ率 0%を目標に売上増大に貢献している。また、KRS の作業に余裕を持たせている(出荷指示は翌日使用する食材の配送であり、センター内作業に余裕ができる)。

・ 店舗から送られてくる発注データを集約し、一括発注による仕入コストの削減を図っている。

・ 保管、荷役、配送の温度帯管理や賞味期限管理、在庫期限管理などにより、品質の保持が図られている(コールドチェーン・システムの確立)。

・ 週 3 日納品から 6 日納品に変更したことにより店舗在庫スペースの削減を図り、そのスペースを客席スペースの増大に結びつけた。

### ② 各機能のコスト削減努力

#### 1) 配送

・ 複数店舗をルート配送により巡回配送することでトラック台数の削減と積載率の向上を図り、配送コストの削減に努めている。

・ 『物語』の配送だけでは積載率が低いルートの場合には、他の荷主との共同配送により、コスト削減を図っている。

#### 2) 保管・在庫

・ 週 3 日配送から 6 日配送に変更して、店舗在庫および KRS 在庫の削減を図った。

・ 一括受注一括発注により在庫削減を図っている。

#### 3) 荷役・包装

・ 流通センター内作業の IT 化により、作業人員の削減を図っている。

・ センター内の移動作業にはパソコンの機能を備えたフォークリフトにより、入在庫作業および入出荷検品の正確性の確保と省力化を図っている。

#### 4) 物流情報

・ 受発注システムの構築により、リードタイムの確立を図るとともに、流通センター内作業のペーパーレス化による作業の迅速化・効率化を図るとともに省力化を支援している。

### 4. 就業力達成度(自己評価)

目的の二つ目の就業力の達成度を自己評価(メンバー全員の平均値)すると以下の通りである。

#### ① 就業力基礎能力

・メモの取り方・要約のしかた:90%

・テーマの進め方:80%

・分析力・理解力:60%

・問題発見能力:50%

#### ② 社会人基礎能力

・挨拶・応答態度:100%

・コミュニケーション力:70%

・リーダーシップ:60%

・報告・連絡・相談:60%

### V. 所見(感想)

山田十五

ほぼ一年間を通して取り組んできたこのプロジェクト活動を振り返ると、自分の成長した点、自分にある能力などが明確ではありませんが、少しずつわかるようになってきたと思います。それらは、先生に言われてきたことが無意味なものではなく、ゼミ生一人ひとりに必要な能力や大人になっていく上で重要なことだったということに気づきました。任されたゼミ長という名だけではありますが、まとめ役をすることができてよかったと思います。なぜか、というのを言葉で上手に表すことはできませんが、成長できていると思

いました。

ロジスティクスという一つの知識として得たことはもちろんですが、それ以外にこれから社会に出ても、恥ずかしくない大人に必要なものも私は得られたと感じています。そして、ゼミの思い出としても残るものになったと思います。今後も引き続き調査する中で、さらにこれらの能力と知識を深めていきたいと思っています。

#### 井垣翔太

今プロジェクト活動をしているが、まず思ったことは大学を卒業し就職する前に会社の中身や社会を知れて良かったと思う。そして僕は大学を卒業する前に、様々な事を学ばなければならないと感じた。あいさつ、礼儀などは当たり前ながらも、議事録の作成やメモの取り方一つに、満足にできていない自分に気がつくことができた。

僕たちのゼミでは物語コーポレーションの物流の「情報の流れ」と「ものの流れ」の実態を調査すると共に、石田ゼミで設定をした就業力を養うという目標を掲げた。

その中でも挨拶に関しては、しっかりできたと思う。社会のマナーでもある挨拶は学生にうちに完璧にしたい。その他のコミュニケーション能力などは経験不足のため、意識を持ち向上を目指したいと思う。

#### 洞口貴紀

石田ゼミで学んでいるロジスティクスシステムについて調べるために物語コーポレーションさん（以下、物語）に協力を依頼し、まず物語での物流について話を聞いたところ、物語では物流をワルツとキューソー流通センター（KRS）に任せていることが分かった。

その中で、自分は荷役・包装を担当しており、KRS について興味を持った。KRS の作業員の方は上着を着ただけの防寒対策でその中でも作業をしていた。KRS でマイナス 22 度の冷凍庫の中で話を聞きながら写真を撮ったことはと

でも印象に残っている。

ゼミでロジスティクスの仕組みや役割について調べていくことで、今まで身近にありながらも気にもかけなかったことについて新たに学ぶことができた。話を聞き、いろいろな物を見てとても楽しかった。初めて積極的にひとつのことに對して一生懸命調べることができたのでとても満足している。

#### 野間洋佑

正直プロジェクト活動が始まるまではロジスティクスについて全く興味がなかった。だが、その機能についてみんなで話し合ったり、実際に協力していただいた企業へ調査や質問へ行き、少しずつだが理解できるようになり真剣に取り組むことができた。

私が調査に行った中で 1 番関心を持ったのが物流センターである（株）キューソーである。まず、広さにびっくりしたし、その中を普通にフォークリフトが走っているのにも驚いた。フォークリフトに始め、ソーターやハンディターミナル、情報の管理の仕方にも驚いた。冷凍庫の中に入った時は本当に寒すぎてやばかった。

こういったことを 1 年間通して行い、自分たちなりに理解し、まとめることができた。途中ではあるが確実に始めたころより知識を増やすことができたし、今後社会に出たときに必ず何か役に立つ内容だったと終わってから実感した。

## 福祉支援事業 今井久登ゼミナール

### I. プロジェクトメンバー

今井久登先生  
古川 万莉  
天野 新太郎  
芝崎 智治  
竹下 聡起

### II. プロジェクト概要

私たちのゼミでは、ボランティア活動を通して福祉施設の現状を理解すること、介護福祉士の仕事を理解すること、入所者の方と触れ合うことを目的として、福祉施設に訪問してボランティア活動を行う。

### III. 連携先企業

豊橋市社会福祉協議会 あいトピア  
社会福祉法人福寿園 昭和の里  
社会福祉法人明陽会 明陽苑  
豊橋市大清水地域福祉センター

### IV. 活動内容

前期の活動では、社会福祉法人福寿園と医療法人明陽会明陽苑に訪問し、紙芝居のボランティアを行った。後期の活動では、豊橋南デイケアセンターに訪問し、紙芝居のボランティア活動を行うとともに施設見学を兼ねて入所者の方と交流したり、施設の方と話をし、福祉施設の現状を理解した。また、インターネットを使用し介護福祉士の仕事について調べ学習並びに施設に訪問し、実際に介護福祉士の仕事を見

学した。

後期の活動では、前期活動でできなかった施設職員とのコミュニケーションの実施と入所者との触れ合いを行った。職員の方や入所者の方と話をしてみると、インターネットなどの調べた情報とは違い、実際の仕事の大変さや、施設の現状など生の声を聞くことができた。

施設職員だけでは大変な仕事があるため、常時ボランティアの方がいて、施設職員の方の仕事を手伝っている現場を見ることもでき、就職者と介護職のミスマッチが実際にあることを見ることができた。



ボランティア活動では紙芝居の上演の他、入所者の方と折り紙工作を行ったり、五目並べで対戦しながら、コミュニケーションを取った。紙芝居では、笠地蔵やカチカチ山の狸等を上演を行いお年寄りの方に大変喜ばれた。

### V. 所見

古川 万莉

前期は、すべてがグダグダでした。福祉施設に行ってもボランティアの一環として紙芝居をやったけど、ボランティアをしてきたんだという実感とか達成感というかよか

ったなという気持ちが正直無かった。2施設紹介していただいて実際に行って紙芝居をしてきたけど、職員の方や入居者の方が喜んでくれてるなって感じがしなかったので実感が無かったんだと思います。反省点を話しているときに、ゼミの他の人や先生も同じ考えを持っていたという事が分かったので改善策を考えました。

ボランティアは一般的にはその施設のお手伝いをする事っていう事を考えたときに今の紙芝居だけだとさみしいじゃないかという事になり、紙芝居はちょっと置いといて見学という形でボランティアに行くという結果になりました。実際後期で南ディケアセンターに見学メインで紙芝居はできればやるという形で行って、入所者の方と一緒に何か作ったり遊んだりしました。前期の時とはまったく違って施設の方も喜んでくださって、入所者の方からも「かみしばいよかったよ」と言ってもらいました。みなさんが喜んでくれてそれを表情と言葉で感じる事ができたので自分もボランティアしてきたんだなと実感できたし、ここでボランティアができてよかったなと思いました。



天野 新太郎

医療福祉施設、ボランティア施設を就職活動の視野を広げること、医療福祉施設の現状を理解することを目的に見学、訪問し、医療福祉施設やボランティア施設の一端にふれました。

まず、こちらから医療福祉施設、ボランティア施設にボランティア活動を目的に伺ってもよいかを電話で質疑応答し、施設に伺う日時などを打ち合わせすることによって、電話対応のマナーや、重要事項のメモ取り、模擬的な交渉によるメンタル面の強化に繋がりました。

医療福祉施設、ボランティア施設で行った主なボランティア活動としては、福祉施設利用者を対象とした紙芝居でした。

この紙芝居というボランティア活動は、集団の中で用意していた資料(紙芝居)を正確にわかりやすく発言することによって擬似的なプレゼンテーションを体験することに繋がりました。

医療福祉施設は比較的介護度が低い人が話し相手を求めて集まる憩いの場でもあり、初めて利用する人もおり、老後のコミュニケーションの大切さを知る場所でもありました。



芝崎 智治

今井久登ゼミでは、今回のプロジェクトの活動で介護や福祉の分野の仕事を知らうと言うことになりました。なぜ介護施設なのかと他のメンバーより問われたので私はこのメンバーの中で最初に老人ホームにお世話になるからだよと言って、私の考えに賛同して頂きました。

メンバーで協力して介護福祉施設を調査したところ、ボランティアの要望が多いことが分かりました。私たちに出来るボランティアはないかと検討した結果、紙芝居のボランティアができるのではないかと話しになり紙芝居することに決まりました。紙芝居は何処にあるか調べていたら創造大学の図書館にお年寄りの好きな日本昔話が多数あることが分かりました。その中で笠地蔵、カチカチ山の狸、浦島太郎、かぐや姫等を借りて図書館の特別講義室を予約し毎週練習を行いました。

紙芝居がなんとか上演できるまでにメンバーが上達してきたので、いよいよ紙芝居を見たいと言う介護老人ホームを訪問して紙芝居慰問ボランティアを実施しました。若いメンバーに協力して頂き大成功でした。

若いメンバーと今回の活動ができたことを感謝しています。

竹下 聡起

私はこのプロジェクト演習を通して、改めて福祉の仕事の大変さとお年寄りの方との交流の難しさを学ぶことができました。このプロジェクトでは3か所の福祉施設に訪問し紙芝居やボランティア活動を行い、お年寄りの方に喜んでいただけたことはとても嬉しかった。このプロジェクトでは介護福祉士の仕事を理解することも活動の一つであり、ボランティア活動を行う中で仕事を見ていたが、介護福祉士の仕事は体力的にも大変だけど、精神的にも大変な仕事だと思いました。

福祉の仕事は大変だということはニュースや新聞でよく報道されているが、実際に仕事をしている所を見て、報道されていたよりも大変な仕事なんだと思いました。今の日本で介護の仕事に就く人が少ない状況が福祉施設を訪問して目の当たりにして、介護福祉士は本当に大変な仕事なんだと思いました。今回のプロジェクト活動を通して介護福祉士の仕事を理解することができいい機会になった。

※所見は、プロジェクトメンバー1人ずつの所見

※図表、画像データ等は、任意の場所へ挿入

※全体のページ数は4枚以内



## ビジネス系学生のための情報処理資格に向けた電子コンテンツの改善活動

### I. プロジェクトメンバー

プロジェクトメンバーは、以下の7名である。

豊橋創造大学 情報ビジネス学部

キャリアデザイン学科

20923219 西山 拓磨

20823230 木村 翔太

20823102 井本 博崇

20823105 小倉 巧夢

20823112 白井 雅也

20823124 梶野 啓右

20823223 高須 健太

担当教員 今井正文

・非特定営利活動法人 インターネットラーニングアカデミー (ILA)

事務局 佐藤雅一 様

・アカデミー教材プロジェクト 広島国際大学工学部 情報通信学科 越智徹 様他

### II. プロジェクト概要

CompTIA Strata 認定シリーズは以下の社会人もしくは学生などを対象に作られた IT に関する基本となる知識、スキルを認定するプログラムである。

- ・IT に関する営業職種の方
- ・新たに IT 関連の職務に就かれる方
- ・IT 関連の就職を希望される学生

CompTIA Strata は自身が使用する PC の管理やメンテナンスなどを中心に問題が構成されている。IT スキル育成のファーストステップとして活用できる。

このプロジェクトの目的はビジネス系学生のための情報処理資格である CompTIA Strata IT Fundamentals に向けた電子コンテンツの改善活動を行う。このような活動を通じて情報系の学習方法を学ぶとともにそれを支える事業や技術を体験する。

### III. 連携先企業

連携先団体は、以下の2団体である。

### IV. 活動内容

プロジェクトの内容は、ILA (internet learning academy) から配布予定である電子コンテンツのテストおよび開発活動に参加した。ILA の電子コンテンツは iPad に展開が予定されており、今回大学より貸与された iPad を用いてコンテンツ(pdf,ppt)のテスト、修正報告等の改善活動に加わった。他にも、小テストシステムの開発活動に携わった。この様な活動を通じてコンテンツ事業の開発過程を学んだ。

PDAの多くは、表示部分がタッチパネルになっていて、専用のペンで入力を行います。しかし、処理能力や記憶容量が非常に貧弱なため、あくまでちょっとしたファイルやメモ、スケジュールを入れておき、外出先でそれを閲覧・修正するという用途に使用します。必要に応じて PC と接続し、ファイルを入れ替えます。

本来、このように PDA はあくまで PC の補助的な役割としての端末でしたが、電話機能、通信機能、文書等の編集機能などを持った 1 台で何でもこなせる多機能端末が登場しました。これがスマートフォンです。世界的に有名なスマートフォンは iPhone や Blackberry がありますが、日本でも 2005 年という比較的早い時期にシャープと WILLCOMM の共同製品として W-ZERO3 が発売されています。(図 1-2)



図 1-2 日本式スマートフォンの元祖 W-ZERO3

一方、通常のノート PC に PDA のタッチパネルを組み合わせたものがタブレット PC です。液晶ディスプレイに、タッチセンサーが埋め込まれていて、キーボードやマウスを使った入力の他、指によるタッチ操作やペンによる入力が可能です。ただし、機種ごとに使用できる入力方法は異なります。

図 4.1 電子教材の一部 (pdf)



違和感を感じた箇所  
 p37 - 38 に続いている表 3 - 1。  
 p44 のお気に入りの整理の 2. (イ) の文章。中途半端に次のページに続いている。  
 p49 の 4.4.3 の 5. の文章。中途半端に次のページに続いている。  
 p53 の一番下にある章末問題のタイトル。p54 の一番上に持って行った方がいい。

図 4.2 修正コメントデータの一部

プロジェクト開始当初は、広島国際大学側から CompTIA の電子コンテンツデータを受け取り pdf 化して iPad で閲覧できるようにした。さらに広島国際大学側のチェック作業要望を確認し、pdf 教材の修正報告を行った。電子教材の pdf の一部を図 4.1、修正コメントデータの一部を図 4.2 に示す。

次に、iPad の電子教材の修正確認を兼ねて、図 4.3 に示すような、もう一つ電子コンテンツの ppt 教材を使用し、模擬授業を行った。電子コンテンツの改善を行いつつ、このような作業を通じての情報系の勉強方法をも学んだ。

## タブレットPC

Internet Learning Academy

- ・ ノート型でも特殊な PC
- ・ 液晶画面がタッチパネルになっている
- ・ 製品によってはキーボードがないタイプも



DELLのタブレットPC

図 4.3 電子教材の一部 (ppt)

また、moodle を利用した小テストを作成した。まず、linux サーバや moodle のメンテナンス及び管理等の作業を学び、moodle を用いた

e-learning system の構築を行った。moodle の小テストの例を図 4.4、図 4.5 に示す。

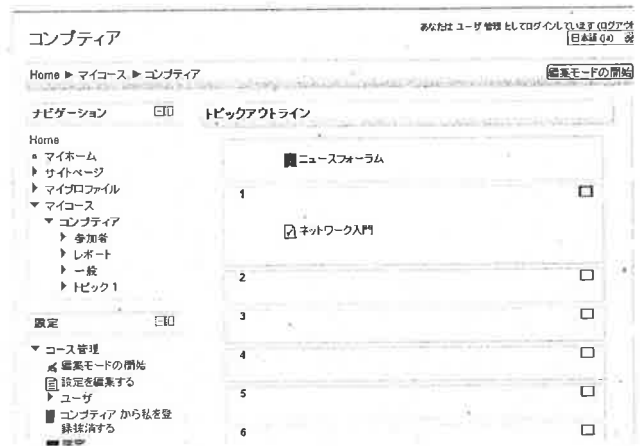


図 4.4 moodle の起動画面

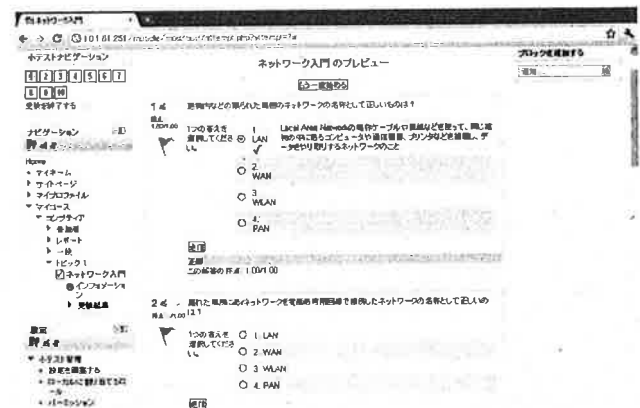


図 4.5 moodle 小テスト例

今回のプロジェクトでは、コンテンツ(pdf,ppt) のテスト、修正報告等の改善活動に加わせて貰い、また、linux サーバや moodle のメンテナンス及び管理等の作業を学びながら構築を行う等の活動を通じて、電子コンテンツ事業の開発過程の一部を学ぶことが出来たと考える。

また、今回の作業全体を通じて、知識以外にも学んだ所がある。それは、チームで1つの事に取り組む事の難しさである。最初は、役割分担はなどの方針も決まらず、作業の効率的な進め方も決まらなかった。しかし、全員で話し合い、それぞれの役割を明確にすることにより、徐々に作業が進み始めた。提出がいつもギリギリになるなど様々な問題もあったが、今回の経験を今後、

チームで活動する事があれば生かす事が出来たら良いと考える。

## V. 所見

### 20923219 西山 拓磨

このような活動を通じて、最初は、情報系には無知だった私が少しずつ理解できるようになってきた。実際に iPad で電子教材を使った模擬授業をした時は、このような形で授業が進んで行くのかと楽しみながら受けていた。また、moodle を使って小テストやクイズを作成した時は、iPad から問題等を作るため、問題文を打ち込むのに苦労した。しかし、その問題文とともに各選択肢の意味なども一緒に調べて打ち込んだので勉強になった。ただ書き込んでいるだけでは意味がないので、書き込んだ後に実際に、moodle を使って小テストを行ったりしながら知識を少しずつ深めていくことが出来た。また、linux サーバや moodle を用いた e-learning system の構築を行った。linux サーバや moodle のメンテナンス作業及び管理等の仕方も学び、私にとってはとても為になるプロジェクトだった。さらにこのような活動を通じて当初はさほど興味がなかった情報系だったが、少しずつ興味を持ち始めることが出来た。さらに知識を深めるために今回学んだ勉強方法等を駆使しながら積極的に学んでいこうと考えている。

### 20823230 木村 翔太

私は情報系には全くと言っていいほど興味がなかった。しかし、このようなプロジェクト活動を通じて少しずつ興味が出てきた。プロジェクト開始当初、広島国際大学から渡された CompTIA の電子コンテンツ改善作業と文章の添削を行った。しかし、ただ単に行っているだけでは意味がないので、何回も読んで勉強している感覚でやっていた。ゼミの空き時間あれば電子教材を使って模擬授業を行ったりと、充実した時間が過ごすことができた。このような活動を通じて、情報系の勉強の仕方が少しだが分か

った気がした。さらに情報系について詳しくなるために今回学んだ勉強方法を用いながら、知識を深めていかなければいけないと感じた。

### 20823112 白井 雅也

今回行う就業力プロジェクト活動では、我々今井正文ゼミはビジネス系学生のための情報処理に向けた電子コンテンツの改善活動というテーマで、インターネットラーニングアカデミー、広島国際大学工学部情報通信学科助教授越智徹ら学外の人間と協力し活動を続けてきた。我々4年生のメンバーも3年生に協力する形でプロジェクトに参加し、電子教材に誤字脱字はないかなどのチェックからはじめて、改善案などを提案してきました。また、moodle を使用した小テストの作成など、moodle の機能について作業しながら理解していった。moodle の小テストには様々な問題のタイプがあり用途に応じて使い分けることができる。また、テスト以外にも課題や wiki、チャットなど様々な機能を活用することができ柔軟性があり非常に機能性が高く便利なシステムであることが分かった。

### 20823102 井本 博崇

私も実際に moodle を使ってみて、筆記の小テストではなく、iPad の Web ブラウザ機能を使った小テストと言う点で、興味が持てた。iPad を持ち歩いて好きな時にテストができ、簡単な操作ですぐに問題の答えが出るので、結果をすぐ知りたいと言う人でも安心できる。また、クイズ形式にする事によって、勉強関係だけではなく自分の好きなジャンルで問題を作る事ができるので、勉強以外でも役に立つ所にも魅力を感じた。また受験勉強や期末試験と言った授業のテスト対策として moodle を用いて自分専用のテストも作ることができるので、忙しい学生にも対応しているので非常に便利なツールであると私は感じた。

20823223 高須 健太

このプロジェクトで、ビジネス系学生のための情報処理資格に向けた電子コンテンツの改善活動に参加した。主に自分は広島国際大学側から受け取った CompTIA の電子コンテンツ修正と文章の添削や小テストシステムの開発補助を担当した。自分自身、情報系にはあまり詳しくはなかったが、この作業をしながら IT に関する基礎を学ぶことができた。実際に商品化されると聞いているが、学習に使いやすく、問題も選択式なので取り組み易いように感じた。moodle についてもこの活動で初めて知り、場所を問わず学習や採点ができるなど、オンラインで学習することの有用性を知った。少しではあるが自分が携わったコンテンツが商品化され様々な人に役立つと思うと、やりがいのある有意義なプロジェクトだったと思う。

20823105 小倉 巧夢

今回の活動で、私は、CompTIA Strata 問題集の誤植や改善点を見つける作業を行った。まず、章ごとに範囲を分担し、各章 2 名程度でチェックを行なった。最終的に、各章ごとに出てきた誤植や改善点を一つにまとめて提出するまでの取りまとめ作業を担当した。問題集には私の知らない情報がたくさん載っており、作業というより勉強をしている感覚でもあった。

また、今回の作業を通じて、IT に関する知識以外にも学んだ所がある。それは、チームで 1 つの事に取り組む事の難しさである。どのようにしたら作業が効率的に進むのか、役割分担はどのようにするかなど、最初は上手く方針が決まらず、作業がなかなか進まなかった。しかし、全員で話し合い、それぞれの役割を明確にすることにより、徐々に作業がうまく進み始めた。提出がギリギリになるなど様々な問題があったが、今回の活動で学んだ事を、次回チームで作業することがあれば、生かせたら良いと考えている。

20823124 絵野 啓右

ビジネス系学生のための情報処理資格に向けた電子コンテンツの改善活動において、私は moodle を用いた e-learning system の構築を担当し、CentOS サーバや moodle サイトの構築を行いました。今までサーバ構築や PHP の設定には触れたことがなかったので、最初は何を勉強すればいいのか、どう参照すればいいのか分からず大変でした。しかし、試行錯誤を繰り返しながらサーバを構築し、他のパソコンから moodle サイトを初めて閲覧できたときはとても嬉しかったことが記憶に残った。今回、電子コンテンツの為に e-learning system を学び、その有用性を知りました。インターネットを通じてパソコンやモバイルで最新の教材配布や試験を行うことが出来ること、さらには学生側からも進捗情報を送ったり質問が出来る等、双方向性がある e-learning system は、情報化が進む現代において、これからさらにニーズが増えるシステムであると感じた。

謝辞

本プロジェクトの実施にあたり、ご協力いただいた非特定営利活動法人 インターネットラーニングアカデミー (ILA) 事務局 佐藤雅一様、また、教材修正作業の指示等をしていただいた広島国際大学 工学部情報通信学科 越智徹様には大変お世話になりました。ここに謝辞を表します。

## 豊橋市内小中学校の太陽光発電システム稼働状況調査

### I. プロジェクトメンバー

教員： 見目 喜重  
学生： 杉浦 克希  
杉原 秀俊  
田代 和之

### II. プロジェクト概要

化石燃料は残り数十年で枯渇してしまう恐れがあり、今後は風力・太陽光発電のようにクリーンで無尽蔵な再生可能なエネルギーの利用を増やす必要がある。

太陽光発電は、太陽光エネルギーを太陽電池で電気に変換する発電方法である。その特徴として、①発電の際に燃料を必要としない、②太陽光エネルギーは無限である、③家庭にも設置しやすく生活に身近であるなどがある。

一方で、設置方法により発電量が大きく異なり、システムの故障など長期信頼性に関する問題点も指摘されている。そのために、発電に関するデータの長期収集・分析が必要である。

平成 21 年度末に豊橋市内全小中学校 74 校に太陽光発電システムの設置が完了したことから、本プロジェクトでは太陽光発電システムの大量導入時代に問題となる長期信頼性に関する基礎的なデータの収集・分析を市内小中学校のデータを用いて行う。また、次世代を担う生徒/児童のエネルギー・環境問題への意識を高める環境教育コンテンツの開発を行う。

### III. 連携先企業

豊橋市教育委員会教育政策課

### IV. 活動内容

#### (1) 太陽光発電システムの基礎知識のまとめ

##### (1-1) 太陽光発電システムの仕組み

太陽光発電システムでは、太陽電池モジュールにて太陽光エネルギーを直流電力に変換

する。その電力はパワーコンディショナーにて交流電力に変換される。接続箱では太陽電池から出た複数の配線が一つにまとめられ、各電気器具へと流れる。

##### (1-2) 太陽光発電のメリット・デメリット

太陽光発電は次のようなメリット・デメリットを持つ。

###### ○メリット

- ・可動部分がほとんどなく、メンテナンス不要
- ・日中に発電をするので電力削減に効果的
- ・発電に燃料を使わない
- ・屋根や壁等の未利用スペースを利用可能
- ・送電設備のない遠隔地の電源として利用可能

###### ○デメリット

- ・導入時のコストが高い
- ・発電が天候と自然条件に左右される(夜間不可)
- ・施設の屋根に設置した場合、屋根に負荷がかかる
- ・現状では発電コストが高い(一般家庭で初期コスト分の電力を発電するには、平均で 20 年かかると言われている)
- ・設置方法によって発電量が大きく異なる(方位・角度、日陰の影響(障害物・ビル)、メーカーの差異など)
- ・長期信頼性の問題が指摘されている(パワーコンディショナーは 10 年で交換が必要となり、またその故障率が 1 年以内で 10% 以上との報告もある)

##### (2) 豊橋市内の小中学校の太陽光発電システム導入状況調査(前半)

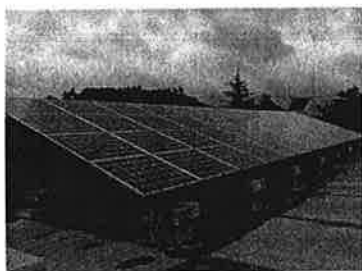
春学期は豊橋市教育委員会から頂いた資料を中心に、これまでの市内小中学校への導入状況を調査した。その結果を以下に記す。

平成 11 年度	新川小	30 kW
平成 19 年度	吉田方中	10 kW
平成 20 年度	豊城中	10 kW
平成 21 年度	吉田方小	10 kW
	小学校	10 kW×43 校、5 kW×7 校
	中学校	10 kW×17 校、5 kW×3 校

平成 21 年度末には市内全小中学校 74 校に太陽光発電設備の設置が完了している。

図 1 には実地調査を行った豊城中学校、羽田中学校、吉田方中学校の太陽光パネルの写真を示す。このように、方角・傾斜角度、設置方法、障害物の有無等が中学校毎に異なる。

なお、豊城中と吉田方中ではパソコンにより発電量と日射量・気温の計測が行われている。



豊城中



吉田方中

図 1 小中学校へのシステムの導入例

### (3) 市内小中学校の太陽光発電の稼働状況 訪問調査 (後半)

秋学期は、市内小中学校の訪問調査を本格的に行った。そのために、電話対応マニュアルを作成し、メンバー各自が担当の小中学校の校務主任の先生に連絡を取った。このようにして日程を調整した後、各自訪問して写真撮影および聞き取り調査を行った。

これまでに以下の 15 校を訪問した。

青陵中、東部中、東陵中、北部中、南稜中、章南中、豊城中、吉田方中  
津田小、つつじが丘小、福岡小、鷹丘小、大崎小、植田小、新川小

調査内容および結果を以下にまとめる。

#### ・設置状況

パネル枚数、方位、角度、障害物の有無

#### ・障害物の有無

いくつかの小中学校で、パネル側面に建家が隣接しているケースが見られた

パネルの西側面に屋上への出入口が隣接しており、午後に影を生じる可能性あり  
パネルの東側面に屋上への出入口が隣接しており、午前中に影を生じる可能性あり  
3 階の校舎の上に設置しているため、4 階の校舎の影が生じる可能性あり

パネルの西側にある屋上への出入口、市役所建物による影が生じる可能性あり  
パネル南面の木が冬季に影を生じる可能性あり

#### ・稼働状況

訪問調査では、瞬間発電量、トラブルの有無を確認した。その結果、訪問時には特にトラブルは見られなかった。

一方、教育委員会によるアンケート結果では、いくつかの小中学校でトラブルの報告があった。この点について、今後、アンケート結果を取りまとめながら詳細に調査する必要がある。

#### ・各学校の特徴

パネルの設置方法も学校により異なる。

屋上左右の隅にて設置(北部中)

前面と後面のパネルで設置角度が異なる(青陵中、東陵中)

建物屋根に直付け(吉田方中、新川小)

屋上プールの日よけとして設置(つつじヶ丘小)

屋上にははしごで登る(屋上に柵なし)(福

岡小、羽田中、津田小)

・インバータの位置・取り付け方

3つのケースがみられた。

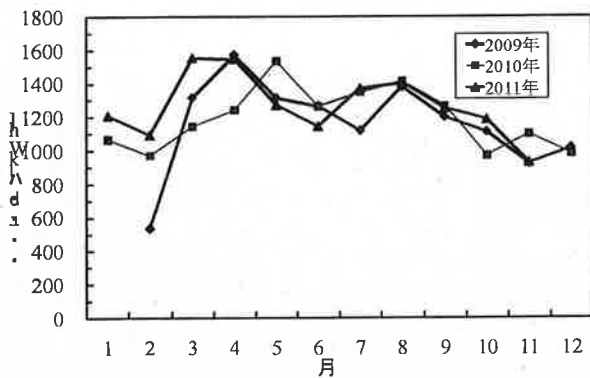
太陽電池パネルとともに屋上(青陵中、北部中など)

建物内(吉田方中、羽田中、豊城中)

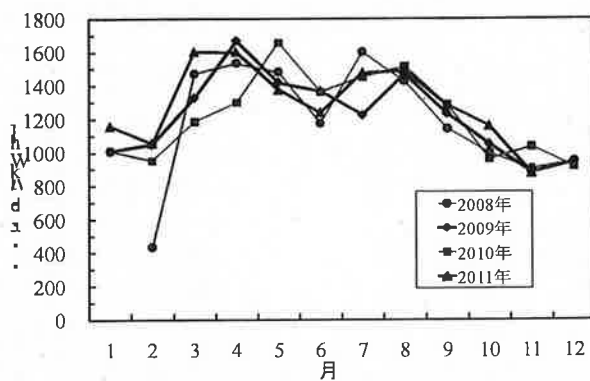
建物とは別の専用施設(新川小)

(4) 発電状況調査

パソコンにより発電量が計測されている豊城中と吉田方中のデータを用いて、各月の発電量がどのように変化しているかを調べた。また、年によってどのように変化しているかを、性能劣化(経年変化)を含めて検討した。



(a) 豊城中



(b) 吉田方中

図2 各月の発電量の変化

図2には両中学校の各月の発電量を示す。発電量は豊城・吉田方中学校ともに3月から8月にかけて多い。ただし、6月は梅雨の関係

で日射量が減少してしまい、数値が下がる傾向が見られる。冬は日が昇っている時間が短い為、発電量が春夏の時期に比べて少ない。

訪問調査の際に、豊城中学校の担当の先生より、設置後数年して年間発電量が増えているとの話を聞き、またその理由について質問された。この点について、今後、収集したデータをもとに詳細に分析する予定である。

(5) 考察

訪問調査を終えて、以下のようなことを考えた。

・パネルの設置場所

いくつかの小中学校では、パネル付近に障害物が見られた。太陽光発電システムの設置場所が必ずしも適切ではないと思われる。この点について、今後、季節、時間帯による影響を詳細に分析する必要がある。

・太陽光発電の導入効果

太陽光発電システムが本当に環境に良いのかとの質問を受けた。太陽電池のパネルの製造にも化石エネルギーを使用している。これについては、正しく設置した場合には、2年程度で製造時に使用した化石エネルギーの削減が可能との報告がある。しかし、発電量が低下するような設置であれば、より多くの年数で運転をしないと環境に悪いことになる。

・パソコンによる発電量の管理

パソコンによる発電量の管理は2中学校でしかなされていない。この点について、小中学校の担当の先生も必要性を指摘されていた。

・余剰電力の売電

豊橋では売電契約をしていないので、余分に発電しても捨ててしまう。この点について、担当の先生から改善を求める意見があった。

・小学校の環境教育の内容

小学生に太陽光発電の原理を説明しても分からない。そこで、パネルが小学生の目に見えるように設置して、教育に活用している(つづじヶ丘小)。

また、EM 団子を作って池に入れる（つつじヶ丘小）、森林保護ツアーへの参加（福岡小）、給食の残飯を肥料に変える施設の見学（福岡小）など、太陽光発電に限らず広い範囲で環境教育に取り組んでいる。

#### (6) まとめ

今回の実地調査により、太陽光発電の設置が各小中学校により異なる事が分かった。今後とも訪問調査を継続して行い、小中学校の累積発電量データの収集と分析を行う予定である。

また、環境教育に関するアンケート結果の取りまとめも行う。

## V 所見

### 杉浦克希

私がこのプロジェクトを通して学んだことは、太陽電池もメーカーによって特徴が異なり、システムの金額や発電量にも差が出るということである。実際に見学に行き、見ることができたのは「KYOCERA」だけであったが、どこも問題なく発電されていた。しかし、取り付けに問題のある所も少なくなく、パネルの側に障害物がある所も多々あった。このような問題点を解決すればもう少し発電量は上がるのではないかと感じた。そして豊橋市内の小中学校に設置された太陽光発電システムは売電機能がなく、余分に発電された電気は捨てることになる。この電気を次の日に繰り越したり、他の建物に移すことはできないのか、ということ、今後考えていきたいと思う。

### 杉原秀俊

私たちは太陽光発電について4月から調査、学習をおこなってきた。最初の頃は太陽光発電という言葉をよく知らず、どういふものなのか分からないままのスタートであった。しかし、太陽光発電について調べていくにつれて、その仕組みやメリット・

デメリット、メーカーによる特徴など様々なこと学ぶこともできた。また、豊橋市内の小中学校に太陽光発電システムの調査では、訪問調査までにゼミのメンバーと電話対応マニュアル作りから始め、各自が担当する学校を決め、担当になった学校に訪問調査の許可を頂くために電話をして日時を決めるなどして、一人でシステムの調査に行った。

初めてのことであったので戸惑いと緊張はすごくあったが、良い経験だと思う。

現在では、自宅に太陽光発電システムを設置する世帯も徐々に増えており、より身近に感じる存在になっている。今後は、自身がこれまでに得た太陽光発電の知識を周囲の人に伝えてきたいと思う。

### 田代和之

私たち見目ゼミナールでは太陽光発電の仕組みと豊橋市市内の小中学校の太陽光発電システムについて調査研究をした。太陽光発電システムは発電の際に一切の化石燃料を使用せず地球に優しく、今世界で話題にされている地球環境破壊の対策にもなる。しかし、太陽光発電システムの導入には莫大なコストがかかり、故障などの不具合も多く発生していることが調査により分かった。また、私たちは実際に豊橋市内の小中学校の太陽光発電システムの見学に行った。豊橋市内の小中学校は全校に太陽光発電システムが導入されている。私たちは市の教育委員会の協力のもとに、設置されている太陽光発電パネルの状況調査（角度・方角・メーカーなど…）に行った。各小中学校により設置状況は異なっており、発電量も様々であった。改善すべき点も発見できたので、効率よくエネルギーを生み出すためにも設置する際に入念な計算が必要だと思った。今回の学習を生かして環境について深く考えようと思う。

## 会計事務所プロジェクトテーマ 中野一豊

### I. プロジェクトメンバー

教授 中野一豊

20923117 夏目智浩

20923208 河合剛宏

20923217 中村季暉

20923630 山崎 僚

### II. プロジェクト概要

豊橋市にある小畑耕一公認会計士事務所を訪問(7/18)し、所長から会計事務所の業務内容とクライアントに対する心構えを伺った。また、会計事務所や金融機関へ就職するには、最低限日商簿記検定試験 3 級以上の合格が望ましいとの示唆を頂いた。

そこで、秋学期にはプロジェクト演習と専門ゼミナールの時間を使って、日商簿記検定試験 3 級の対策を実施した。

### III. 連携先企業

豊橋市向山大池町 9-6

小畑耕一公認会計士事務所

所長代理 小畑しのぶ氏

TEL 0532-53-1223

### IV. 活動内容

①弥生会計ソフトを使い、取引例を入力して、実際の会計業務に近い体験をした。

②つづいて、青色申告書ないし決算書および各種の帳簿を作成した。

③こうした前知識を持って、会計事務所を訪問し、業務内容や魅力ある事務所経営のあり方等の質問をした。

④会計関連科目の強化策として、とりあえず11月20日(日)に行われた簿記検定試験 3 級の合格を目指した。

⑤つぎは、来年 2 月の簿記検定試験 2 級の合格に挑戦する。商業簿記のほかに工業簿記

も加わるので、実力アップするよう努力したい。

### V. 所見

2092117 夏目 智浩

プロジェクト演習に対して、自分が初めて抱いたイメージは、企業に訪問し、現地の方の考え方や、今に至るまでの経緯などを調べるものだと思っていた。そのイメージは大体合っていたし、実際に小畑公認会計事務所を訪問して、より価値のある話を聞くことができた。業務内容から経営理念など様々である。

豊橋の個人の会計事務所ということで、大きな企業にはできない顧客への対応や環境を作るという考え方に、とても共感した。更に、顧客一人一人に対する熱意や丁寧さは素晴らしく、土地を利用した庭の緑の配置、駐車場の設置などは細かな点に注意していて驚いた。さらにはそれらが従業員に居心地のよさに繋がっているのだと感じた。

弥生会計ソフトを使った実習では、入力するやり方に関して、とても簡単だと感じた。検索の機能がついていることがとても便利に感じた。しかし、決算書や帳簿の作成をしてみて、一度の入力ミスで合計が全く違ったりして、とても難しかった。その原因を見つけるのにも一苦勞で、入力ミスには注意しなければならないと思った。

日商簿記は今回うけることができなかったのも、ゼミの時間の問題演習などを通して、来年に必ず合格したいと思った。

20923208 河合 剛宏

プロジェクト演習に対して、どんなことをするのか想像できなかった。実際にプロジェクト演習を行い、会計事務所を訪問することになり、そこでは大事なことを教わることができ、明確な道標ができた。

プロジェクト演習で会計事務所が行っている



基本的な業務である取引例を弥生会計ソフトを用いて会計業務を行った。

実際にデータ入力、決算書の作成、帳簿の作成をして細かい作業ばかりだった。1つのミスで全てが台無しとなり、どこが間違いなのかを見つけるのにとても苦労した。それでも、完成したときの充実感は素晴らしいものだった。

会計事務所を訪問して、質疑を通して所長さんにお伺いした。そこでは、所長さんから事務所の理念を聞いた。

1、地方ならではの魅力ある事務所作り

2、主たる会計士、税理士業務のほかに、ソフトウェアの販売とその初期指導、生命保険業務等と幅広く活動する。

この二つを聞いて、自分が考えているより、大変な仕事だと思った。

実際に簿記検定3級に合格するために簿記のテキストで勉強をした。分からないことばかりで一から勉強した。問題を解くにつれて、自分自身が成長しているのが実感できた。来年の2月には簿記検定3級の試験があるので、さらに努力を重ねていきたい。

#### 20923217 中村 季暉

私は、プロジェクト演習で、会計・金融機関の業務について会計科目の知識を深めたいと考えていた。

実際にプロジェクト演習では、弥生会計ソフトを用い、様々な会計データの入力を行ったり、小畑耕一公認会計士事務所を訪問したり、日商簿記検定試験3級の合格を目指し、試験対策を行った。

弥生会計ソフトを用いた会計データの入力では、仕訳した情報を入力したが、入力ミスが多くあり集中力が必要であると感じた。

小畑耕一公認会計士事務所を訪問した時には、公認会計士や税理士の仕事について学んだり、駐車場の完備や緑を増やし癒しの空間を作ることなど、都会にはできない地方ならではの魅力ある事務所作りについ

て話を聞いたりした。業務では、ソフトウェアの販売とその初期指導や、生命保険業務など幅広く活動していることを知った。

簿記検定対策では、簿記の知識がほとんどない状態から勉強を始めた。6月の検定では、悲惨な結果に終わったが、11月検定では、合格はしなかったものの、残りわずかなところまで点数を上げることができた。次回の検定では、合格できるよう取り組みたい。

#### 20923630 山崎 僚

訪問前に学校で弥生会計ソフトを用いて会計業務を行ったとき、あらかじめ得意先をいくつか設定することができ、売掛金や買掛金の取引のデータを入力するときスムーズに入力することができた。また、備考欄に詳細を入力することができ、取引例の詳しい情報も一目で確認することができると分かった。データ入力を終え、決算書と同じデータ入力した人と比べると合計金額が違っており、多くの取引からどこが違うのか見つけるのが困難だった。たった一つの入力でも違うと合計も合わないの、慎重に入力しないといけないと感じた。

実際に会計事務所を訪問した感想として、事務所の中はとても清潔で、応接室から見える駐車場には木や芝生が植えてあった。部屋や外に緑の癒しを取り入れることでお客様がリラックスした気持ちで話し合いを進めることでできると分かった。小畑会計士事務所では、会計士や税理士の業務の他に、ソフトウェアの販売や指導、生命保険業務などの活動をしていることが分かった。

簿記試験対策では問題集を活用し、知識をつけた。問題にはそれぞれ解き方があり、それを覚えることで短い時間で確実に問題を解くことができた。そして、簿記3級に合格することができた。

# 社会的企業の実証研究

## サーラコーポレーションと東三河障がい者仕事センターが展開する 社会ビジネスの豊橋モデル

[中野 聡ゼミナール]

### I. プロジェクトメンバー

河村 浩矢  
田邊 有希奈  
神島 健作  
小野田 好輝  
山崎 智香子

### II. プロジェクト概要

東三河地域における社会的企業から、サーラコーポレーションの社会貢献事業と東三河障がい者支援センターの活動を実証研究の対象に選定。その活動を追い、社会性、事業性、革新性を評価した。学生は、この過程を通して社会科学の実証研究の方法を学ぶ。

### III. 連携先企業

株式会社サーラコーポレーション  
東三河障がい者支援センター(特定非営利法人福祉住環境地域センター)

### IV. 活動内容

#### (1) 社会的企業

社会的企業は、例えば、「公共的利益の達成を目指し、企業家的戦略をもって組織される私的な活動であるが、利益の最大化ではなくある種の経済的・社会的目標の達成を主な目的とし、社会的排除や失業の問題にイノベーティブな解決をもたらす能力をもつ」と定義される(谷本, 2006年)。

谷本によれば、その基本要件は、①社会性(今解決が求められている社会的課題に取り組むこと)、②事業性(社会的ミッションをビジネスの形に表し、継続的に事業活動を進めること)、③革新性(新しい社会的商品・サービスやその提供の仕組みの開発を通して社会的価値を実現し、社会経済システムを変革する可能性を示すこと)に求められる。

なお、活動詳細は、同名の報告書を参照(サーラコーポレーションの提供資料と共に図書館に所蔵予定)。

#### (2) サーラコーポレーションの社会貢献事業

サーラコーポレーションおよびガステックサービスの社会貢献事業から、廃油のバイオディーゼル燃料(Bio Diesel Fuel, BDF)への再生リサイクルの取り組みを取り上げ、その社会性と事業性、革新性を考察した。



SENA(三遠南信地域連携ビジョン推進会議)起業報告会(商工会議所)にて(2011年5月22日)

① 社会性 …… ある調査(2007-11 年)によれば、愛知県内 61 自治体のうち廃油の資源回収は 16 市町村にとどまる。地域の中核企業であるサーラコーポレーションが、豊橋市の行政に先行する形で、社会貢献事業の中核に位置づけている点は評価されるべきだろう。

② 事業性 …… 担当者によれば、東三河と静岡地域で BDF100 の販売を開始、また、蒲郡市の車輛(観光バス)等にも利用されている。2011 年度 12 月からの事業年度での黒字化をめざしている。

③ 革新性 …… BDF リサイクルは、循環型社会への取り組みのひとつであり、余剰パンの飼料化、食品残さの堆肥化という 2 つの並行サイクルと共に機能している(複合性)。また、グループ各社と協力企業が、地域的なソーシャル・イノベーション・クラスター(SI クラスター)を構成している。SI クラスターは、「社会的企業や中間支援組織、大学・研究機関などが協力的かつ競争的な関係を構築することにより、多様な社会的課題への解決方法や社会的価値を生みだし、新たな社会的事業を形成するような組織の集積状態(谷本、2006 年)を指す。

経済と環境の 2 者択一ではなく、その両立が民間ベースでも十分に可能であることを示している。今後の展開に期待したい。

### (3) 東三河障がい者仕事センター(WACNET)の活動

東三河障がい者仕事センターは、アメリカ、ニューヨークの「NY ファウンテンハウス」に由来するクラブハウスモデルを取り入れた、発達・精神障害者の自立・就業支援を行っている。

障がい者支援として、進路・就労相談、就労に向けての訓練指導、準備支援、職場定着支援、就労の場の開発、モデルビジネスの開発訓練、企業面接の助言、就労困難となった場合の再訓練、進路相談、ジョブコーチの派遣、愛知県就労支援者の派遣等の多彩なメニューを有する。

また、日常生活・地域生活支援として、働く障がい者の生活相談、生活習慣の形成、健康管理、

金銭管理、住居の確保、余暇活動、生活設計等を行う。その他にも、関係機関との協議事業や研修人材育成事業等の啓発活動、企業実習中の指導や連絡調整、継続的訪問による適応状況の把握、雇用管理に関する助言等の企業支援活動が仕事センターの機能を支えている。

① 社会性 …… 発達・精神障害に苦しむ人々は、社会から排除された形で引き籠もりがちになる。そうした人々の自立と就職支援、多様なビジネスモデルによって支えてきた点に、この NPO 法人の社会性を認めることができる。

② 事業性 …… 事業性に関する詳細な情報は入手していないが、豊橋市に地域活動支援センターに認定された。また、発達・精神障害者の自立を支援するための多様な採算型事業を展開している。

③ 革新性 …… コミュニケーションによる問題解決のために、クラブハウスモデルを軸にした発達・精神障害者支援を展開している。そこでは、

- ・誰でも来ることができる。
- ・いつでも帰って来ることができる。
- ・誰からも必要とされる人間関係を築くことができる。
- ・誰からも必要とされる役割がある。

をモットーに、自活が困難な障がい者の働く意志を尊重し、加藤理事長が「豊橋モデル」と呼ぶ、多様な自立支援プログラムを開発、提供してきたところに、この NPO 法人の革新性がみられるのではないかと。

経済は、全ての人間が社会で幸福に生活するために存在する。社会的排除(social exclusion)を社会的統合(social inclusion)に転換することが必要であるにもかかわらず、それはまだ、わが国の社会・福祉政策の基本目的とみなされていない。福祉国家と家族、民間団体のネットワークが有効に機能すれば、モットーが示す原則も、社会一般に共有されうるだろう。

## V. 所見

□ 河村浩矢・・・今回、社会的企業について調査し、たくさんの事がわかった。まず、社会的企業の基本として社会性(今解決が求められている社会的課題に取り組むこと)、事業性(社会的ミッションをわかりやすいビジネスの形に表し、継続的に事業活動を進めていくこと)、革新性(一般的な事業を活用して社会的価値を実現し、これまでの社会経済システムを変革していく可能性を示すこと)と3つの点が指摘されている事がわかった。今回参考にしたサーラ・コーポレーションも、環境事業(サーラの森)や継続的な事業活動(バイオディーゼル燃料への再生リサイクルや食品循環の社会への取り組み)によって、経済システムの変革を行っており、社会的な企業といえるだろう。

□ 神島健作・・・サーラコーポレーションの社会貢献事業を詳しく調べてみて、企業が会社を置く地域に起きている問題に取り組み、解決しようとする考えがあることを実感した。多くの企業はステークホルダーを大切にしている。その中で地域住民・社会における地元企業の在り方を重要視しているサーラコーポレーションは、しっかりとソーシャル・エンタープライズの考えを持ち、様々なアイデアを実行している。それも一過性のものにならないように、長期的に地域社会の問題の解決に取り組んでいる。いろいろな調査のなかで社会的企業の必要性を感じ、自身の考えも少し社会的になったと思う。

□ 山崎智香子・・・東三河障がい者支援センターでは、障がい者の人たちが社会に出て働くために、さまざまな訓練を受けていた。そんな障がい者の人たちを支えている WACNET は社会的に必要なものだと思った。訓練内容も農園をしたり、その農園で採れたもので料理を作って販売したりなど、普通に働いているのと変わらないようなことをしていることを知って驚いた。

□ 田邊有希奈・・・豊橋市内の、しかも自宅からそれほど遠くない場所にこのような組織があるとは知らなかった。WACNET のような障がい者が社会へ進出していく訓練が出来る施設はもっと必要なのでは、と感じた。

## 豊橋筆プロジェクト

### I. プロジェクトメンバー

20823706 大堀章吾  
 20923118 原田敏幸  
 20923204 大坪孝嘉  
 20923212 杉浦史彦  
 20923223 古田和也

### II. プロジェクト概要

豊橋筆は書道用高級筆の分野で日本一のシェアを誇る豊橋の地場産業である。しかし、豊橋市民ですら、この江戸時代から続く伝統工芸を認知している人は少ない。本プロジェクトは、この豊橋の伝統工芸である豊橋筆の幅広い普及と地域の活性化に向けた展開として、大学生によるアイデアの創出、商品企画及びPR活動を通じて地域の活性化を図ることを目的とする。

### III. 連携先企業

有限会社 筆匠 榊原  
 代表取締役 北村 泰雄 様  
 豊橋筆振興協同組合  
 豊橋観光コンベンション協会  
 豊橋商工会議所 地域振興部 地域振興課  
 豊橋市役所 広報広聴課  
 豊橋市役所 企画部 シティプロモーション推進室  
 S.I.plant 山本啓介 様

### IV. 活動内容

①豊橋筆(お土産用ミニストラップ)の商品企画  
 (有)筆匠榊原様より、既存商品(ミニストラップ)の製造工程を学び、市場調査、商品開発(試作品製作、販路開拓、プロモーション)を実践する。

製造工程の学習と市場調査、商品企画(プラン作成)は前期、夏休みに試作品製作とパッケージに使用する画像提供の相談・交渉を実

施した。後期は9~10月に画像使用許可手続きと商品製造、学園祭・チャレンジショップにおける販売を行った。



商品パッケージ (表裏面)

#### 豊橋筆の由来

豊橋筆の起源は文化元年(1804年)にさかのぼり、京都の鈴木甚左衛門が吉田藩(豊橋)学問所の御用筆匠に迎えられたのが始まりであるといわれている。

幕末のころになると、吉田藩の財政も苦しくなり、節約と減俸に痛めつけられた藩士たちは、人の目に触れずに内職ができるという理由で豊橋の毛筆生産は士族後産の仕事となった。また、豊橋地方は北部に山岳地帯をひかえ、いたち、狸、狐、兎などが多く生息し原料が容易に入手できたため、副業として十分成り立った。

豊橋筆が国内にその名を知らしめるきっかけは、豊橋が交通の要衝であったことにもよる。豊橋は、東海道五十三次の宿場町(吉田宿)として大いに栄え、茶屋の墨商人が江戸への販路拡大を遂げたことも豊橋筆の名前を高めた。

このような結果、豊橋筆は脈々と伝統を受け継ぎ、昭和51年12月15日には歴史と品質が高く評価され、通商産業省より「伝統的工芸品」の指定を受けることとなった。(有)筆匠 榊原 展示用資料より)

#### 豊橋筆プロジェクト

豊橋創造大学情報ビジネス学部3年専門セミナー(専攻 経営学)の学生を中心とする学生プロジェクトである。

豊橋筆は書道用高級筆の分野で日本一のシェアを誇る豊橋の地場産業である。しかし、この江戸時代から続く伝統工芸を認知している人は少ない。本プロジェクトは、(有)筆匠 榊原の北村泰雄氏と協力し、この豊橋の伝統工芸である豊橋筆の幅広い普及と地域の活性化に向けた展開として、大学生によるアイデアの創出、商品企画及びPR活動を通じて地域の活性化を図ることを目的としている。

#### 画像：豊橋 手筒花火

愛知県豊橋市は手筒花火発祥の地です。五穀豊穡、無病息災、家運隆盛、武運長久を祈り受け継がれた手筒花火は奉納者自らがその製造から放物までの全行程を手作りで行う数ある花火の中でも特異な東三河の伝承文化です。(豊橋商工会議所 夏の祭典HPより)

夏の祭典HP <http://www.toyokasshi-cct.or.jp/kanko/honoo/index.html>



画像提供 豊橋市役所広報広聴課  
 企画協力 豊橋商工会議所  
 豊橋観光コンベンション協会

商品パッケージ (説明書き)

## ②豊橋筆の普及・PR活動

豊橋筆の普及・PR活動として豊橋市の商学連携事業である豊橋三大学サマーカレッジチャレンジショップの企画・運営にメンバーが参加し、販売ブースやイベント企画として豊橋筆の販売・PRを行った。本年度のテーマはアートで、こゑは企画当初から豊橋筆の扱うことが決まっていたことに拠るところが大きい。開催期間は8月6日(土)から28日(日)で、場所は広小路3丁目の空き店舗出あった。豊橋筆に関わる具体的な実施イベントは以下の通りである。

### 【イベント】

- ・豊橋筆を使った書道と太鼓の競演  
(8/14:豊橋駅前サークルプラザ)
- ・豊橋筆を使った絵手紙教室



(8/20:サマカレ店舗内)

### 【店舗販売ブース】

- ・豊橋筆の販売
- ・手作りミニストラップの販売

豊橋筆を使った絵手紙教室

## V. 所見

20823706 大堀章吾

今回のプロジェクトで、私は(有)筆匠榊原の北村さんのご指導の下、豊橋筆ミニストラップ製作を担当しました。具体的には、北村さんに連絡をとり、プロジェクト内容を説明とご指導頂ける日程を決めるためのアポイントメントをとることから始まりました。実際に工房を訪問すると、墨汁の匂いと、焦げた香りが漂っていました。この焦げた香りというのは、筆づくりの際、高温の鉄で筆の根元を焼くために発生するもので、その

香りがとても匠の技という雰囲気を出していました。ミニストラップ製作の際は、榊原さんと奥様が丁寧にご指導して下さいたため、とても和やかな雰囲気のもと作り方を教わる事が出来ました。ミニストラップを作る際に注意すべき点もわかりやすくご指導していただけたので、ゼミ内で結果報告する際も細かい留意点も説明することができました。

今回のプロジェクトで物づくりの楽しさや奥深さを知ることが出来ました。特に伝統工芸の職人であり、匠である北村さんのご指導からは、良い物を作るには、細かな点も妥協せず、使用する人の事を考える事が大切であるということを学ぶことが出来ました。

20923118 原田敏幸

私がプロジェクトで担当したのは、豊橋ミニ筆ストラップの作り方を学び、豊橋筆の歴史についての資料収集と整理でした。また、商品の製造に関しても、(有)筆匠榊原の北村さんより、材料を調達し、メンバーを指導しながらその製造にあたりました。商品作りは、細かい作業が多いのですが、懇切丁寧に教えてくださった北村さんの指示を思い出しながら、作業を行いました。

また、商品パッケージに使用許可を得るために豊橋市役所の広報広聴課を訪ねました。企画趣旨をご理解頂き、企画部シティプロモーション推進室を紹介して頂きました。推進室でも非常に協力的に対応して頂いたことには大変驚きました。

今回のプロジェクトを通じて、豊橋筆に携わる人々の想いや多くの協力を得ることで、改めて豊橋の名産物である「豊橋筆」をもっとより多くの人々に知ってもらいたいと思うようになりました。また、このような繋がりを上手く作り出すことは、成果を挙げるために非常に重要だと思いました。そのために企画趣旨や目的を明確に説明することや人脈作りの重要性も学べたと思います。

20923204 大坪孝嘉

私はプロジェクト・リーダーとして全般的に業務を担当しましたが、主に外部の方々との打合せや相談・交渉などを行ってきました。

商品企画における相談で豊橋商工会議所や豊橋観光コンベンション協会に伺った際には、まだ企画自体が固まっていない状態であるにもかかわらず、趣旨に御賛同頂き、貴重なご意見やアドバイスを頂くことができました。また、こちらの作業の進捗が遅く、成果報告などが遅れたことを反省しております。

また、外部協力者との相談や打合せにおいては、非常に速いテンポで話が進むことが多く、新たな企画展開や協力者の紹介など、こちらの構想を大きく変えることも度々ありました。

今回のプロジェクトを通じて、様々な人たちと協力することの重要性を学びました。また、短い時間ではありましたが、お忙しい中、真剣にこちらの話を聞いて頂き、適切なアドバイスを下さったことには大変感謝しております。このような方々の期待に応えねばならないという責任感の中でプロジェクトを行えた事は貴重な経験だったと思います。

20923212 杉浦史彦

私は HP やブログ作成による情報発信を担当しておりました。前期は豊橋筆に関する情報収集を行い、商品パッケージに説明文などを作成いたしましたが、夏休み以降、インターンシップ、学園祭実行委員、ビジネスプランコンテスト参加などの別行事への準備・参加が重なり、プロジェクトの業務を行うことが出来ませんでした。折角、情報を提供して頂いた(有)筆匠榊原さんやソーシャルメディアによる集客方法など講義して頂いた S.I.plant 山本さんには、大変申し訳なく思っております。今後、可能な限りにおいて、HP 作成業務を遂行していきたいと思っております。

20923223 古田和也

私はプロジェクトの普及・PR 活動の担当として

サマーカレッジチャレンジショップの企画運営に参加しました。5 月より、豊橋の三大学のメンバーとともに実行委員として活動し、そこでは豊橋筆の企画に関するイベントと販売ブースの業務を担当しました。特に、企画段階では豊橋筆振興協同組合にイベント開催等の許可を得たり、(有)筆匠榊原の北村さんから、絵手紙教室の講師を紹介して頂き、企画を進めてきました。また、開店後は豊橋筆の販売管理や小学生に筆ストラップの作り方を教えることなどを担当しました。

そこで、私が活動を通じて感じたことは連絡の大切さでした。特に、プロジェクトメンバー以外と協働することが多く、お互いに会う機会も限られていました。そのような中で、連絡したにもかかわらず、問題が起きることが多々ありました。意思の疎通は困難でも、しっかりと情報を伝えることは出来たのにと反省しております。また、情報が伝わっているにも関わらず、問題に対処でいなかったこともありました。今から考えれば、ただ漠然と情報を伝え、判断を委ねるのではなく、相手の状況や場合によっては、対処策や実行プランの提案までもすべきだったかと思っております。この経験を今後に活かしていきたいと思っております。

# 豊橋自慢企業のトップインタビュープロジェクト

三好プロジェクト

## I. プロジェクトメンバー

堀江光 (20923224)、宮崎康平 (20923727)、  
大江澄南 (20923203)

## II. プロジェクト概要

豊橋市には特色のある企業が多く存在している。その経営には企業の独自性や理念が込められている。そこで企業トップに直接話を伺うことで企業の本質に迫り、企業の特徴や魅力を調べる。その結果から豊橋地域の産業面での強みを明らかにすることを、本プロジェクトでは目的とする。本プロジェクトでは特色ある企業を訪問することで豊橋地域の強みを再確認し、それらをまとめ Web サイトに公表することによって、豊橋地域のシティープロモーションの一助とする。

まず特色ある企業を種々の視点から調査して調査対象候補を選定する。そして、これらの企業にプロジェクトの趣旨を説明し協力頂ける企業を選出し、インタビュー活動とそのまとめを繰り返す。また、就職活動を控える学生にも有意義な報告になるように、企業トップが求める人材像についても併せて調査を行う。

## III. 連携先企業

本プロジェクト活動を進めるにあたり、インタビュ

ーにご協力いただいた企業を表1に示す。なお、春学期に訪問した(株)平松食品と(株)エフエム豊橋は学内の人的ネットワークを通して紹介をいただいた。また、秋学期に訪問した(株)サイエンス・クリエイト、ヤマサちくわ(株)、本多電子(株)は学生自身で直接企業に協力依頼を行った。

## IV. 活動内容

### IV-1 作業スケジュール

作業スケジュールを表2にまとめる。2011年4月に話し合いを行い、プロジェクトテーマを「企業トップインタビュー」とした。その後、新聞、商工会議所ニュースの調査を通して、訪問企業を決定した。訪問日程の決定、インタビュー内容の検討など事前準備を行った。これまで、全5企業の訪問を行ったが、後半の企業に対する活動では、訪問日程の確定やインタビューを学生のみで実施した。

### IV-2 事前準備作業

訪問企業の選定後、以下の準備作業を計画し、企業訪問を行った。計画内容を示す。

#### (1) 企業訪問のアポイントメント

訪問希望企業に対して学内の人的ネットワークを通

表1 連携先企業一覧

企業名	資本金/設立	事業内容	インタビュー相手	URL
(株)平松食品	1,000万円 昭和63年 7月25日	佃煮の製造、販売	代表取締役 平松賢介様	<a href="http://www.bisyoku.com/">http://www.bisyoku.com/</a>
(株)エフエム豊橋	2億5,680万円 平成4年8月18日	コミュニティラジオ放送 (地域放送)	取締役統括部長 竹内宏和様	<a href="http://www.843fm.co.jp/">http://www.843fm.co.jp/</a>
(株)サイエンス・クリエイト	15億4,950万円 平成2年10月2日	豊橋サイエンスコアの運営、 産学官共同研究や地域産業 支援事業	代表取締役専務 中野和久様	<a href="http://www.tsc.co.jp/">http://www.tsc.co.jp/</a>
ヤマサちくわ(株)	1億円 1827年	水産練製品の製造、販売、 飲食事業	代表取締役社長 佐藤元英様	<a href="http://yamasa.chikawa.co.jp/">http://yamasa.chikawa.co.jp/</a>
本多電子(株)	1億円 昭和35年6月8日	超音波応用機器の製造、販売	代表取締役社長 本多洋介様	<a href="http://www.honda-el.co.jp/">http://www.honda-el.co.jp/</a>



して紹介いただく、また各自で直接企業に交渉し、企画説明とアポイントメントを確定する。

(2) 企業調査

企業の Web ページや関連記事などインターネットから情報収集し、それをもとに意見交換を行う。訪問企業について理解を深める。

(3) 質問リスト作成

5 項目に分けインタビューの大まかな流れを考え、詳細の原案を作成する。

- (a) 経営者の人物像について
- (b) 企業について
- (c) 豊橋のシティープロモーションについて
- (d) 就職活動について
- (e) 座右の銘について

質問リストを最終チェックし、インタビュー当日の1週間前に挨拶状と質問リストを送付する。またインタビューの練習を兼ねて、当日の行動のシミュレーションを行う。

(4) 訪問日の段取り

当日の服装、交通手段、持ち物の確認をする。各自の役割分担の打ち合わせを行う。また訪問前日までに電話にて挨拶と訪問確認を行う。

IV-3 インタビューの実施

最初に名刺交換などの挨拶を行い、プロジェクトの

主旨を説明後、事前準備に用意したインタビュー内容に沿ってインタビューを行う。訪問日の役割分担は、インタビュー係1人、記録係2人とする。インタビューの記録はICレコーダーとデジタルカメラで行う。帰学後、記録のバックアップとメールにて礼状の送付を行う。5回のインタビューの役割分担を表3に示す。

IV-4 まとめ作業

インタビュー後、インタビューの概要(メモ)を作成し回覧により不足を補う。またインタビューを通して学んだことを所見として各自まとめる。そして、Wordにて企業概要やインタビュー内容をまとめ、報告書を作成する。作成した報告書の内容をWebページ(図1)に写し、写真を挿入し、Webページを作成する。Webページの作成が終了後、インタビューを行った方に校閲依頼を行う。校閲依頼が終わり次第、まとめ作業を完成する。

IV-5 インタビュー活動報告

春学期は(株)平松食品、(株)エフエム豊橋、秋学期は(株)サイエンス・クリエイト、ヤマサちくわ(株)、本多電子(株)に訪問し、インタビューを行った。インタビューを行った5企業でのインタビューを以下に要約する。

表2 作業スケジュール (点線の矢印は現在進行中)

	4月	5月	6月	7月
企業訪問事前準備	ミーティング、情報収集 26日：プロジェクト実行書提出、村松東さんと打ち合わせ	平松食品訪問準備	●1日：平松食品訪問 エフエム豊橋訪問準備	●6日：エフエム豊橋訪問
報告書作成			平松食品 →	エフエム豊橋 →
	9月	10月	11月	12月
企業訪問事前準備	サイエンス・クリエイトへ依頼、訪問準備	●7日：サイエンス・クリエイト訪問 ヤマサちくわへ依頼、訪問準備 本多電子へ依頼	●11日：ヤマサちくわ訪問 本多電子訪問準備	●9日：本多電子訪問
報告書作成	平松食品 エフエム豊橋 →	サイエンス・クリエイト →	ヤマサちくわ →	本多電子 →
Webサイト制作		制作開始	平松食品完成	残り4社製作中

表3 インタビューの役割分担

	インタビュー係	記録係 (iPad)	記録係 (メモ帳)
平松食品	堀江	宮崎	大江
エフエム豊橋	宮崎	大江	堀江
サイエンス・クリエイト	大江	宮崎	堀江
ヤマサちくわ	堀江	大江	宮崎
本多電子	宮崎	堀江	大江

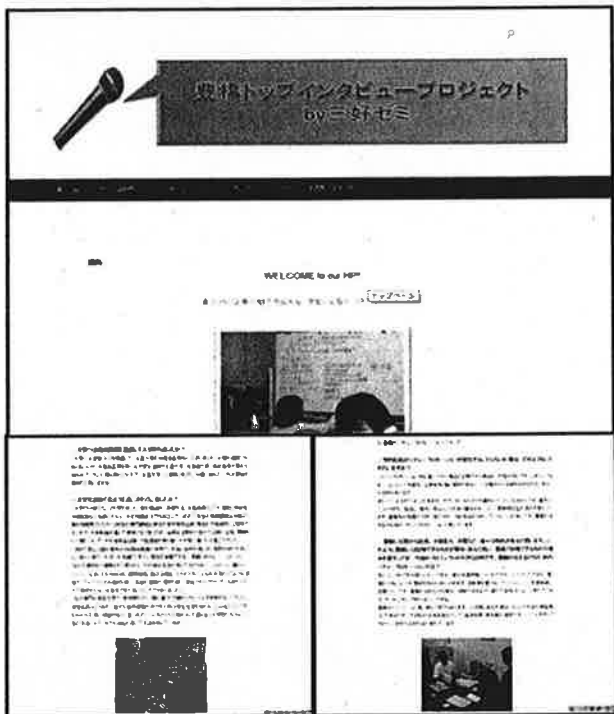


図1 Webサイトのイメージ画像

㈱平松食品では、平松賢介代表取締役インタビューを行った。平松食品では、伝統の上に新しい食文化を形成することを目指していると伺った。そのために品質、安全、環境を守るマネジメントを実践するとともに新たな挑戦を繰り返すことを伺い、その推進力に力強いものを感じた。その具体例として、従来の佃煮の食べ方とは異なる佃煮の食べ方の提案など、佃煮の可能性を教えていただいた。新しいものを創り出すという姿勢から、平松賢介社長の佃煮に対する熱い思いが感じられるインタビューであった。

㈱エフエム豊橋では、竹内宏和部長にインタビューを行った。エフエム豊橋は地域密着型のコミュニティ



図2 サイエンス・クリエイトのインタビュー風景

放送局であり、地域活性化のための放送を目指していると伺った。特に、地域のイベントに数多く出向いて、放送により地域活動の活性化を目指しているとのことであった。エフエム豊橋は地域コミュニティ局としての役割を果たし、豊橋活性化を支援する存在であるとの認識を深めた。

㈱サイエンス・クリエイトでは、中野和久専務にインタビューを行った。サイエンス・クリエイトは、産学官共同研究や地域産業支援の東三河地区の拠点である。中野和久専務は起業家の支援や新規事業展開のための共同研究の推進に従事されていることを伺い、様々な産業振興支援が行われていることを知った。また、シティープロモーションに関する質問では、「豊橋を外に売り込みに行くのではなく、豊橋に呼び込んで豊橋の強みを見せる」との話を知った。豊橋の強みをさらに活性化させるネットワーク形成にサイエンス・クリエイトの支援が重要であると認識した。

ヤマサちくわ㈱では、佐藤元英代表取締役インタビューを行った。ヤマサちくわは昔と変わらぬ精神でちくわの味を追求し、お客様の幸せを増進することを企業理念とする企業である。「調味料を多用して味をごまかしたくない」という佐藤社長の思いが企業理念に現れ、それが豊橋名物としてちくわを維持していると感じた。美味しいものを食べた時の顧客の笑顔を作るために、ヤマサちくわは本物を追求する企業風土の所以であると強く感じた。

本多電子㈱では、本多洋介代表取締役インタビューを行った。本多電子は、超音波を要素技術として、魚群探知機をはじめとして産業機器、医療機器など幅広く開発する企業であると伺った。海外市場から日本市場を対象として市場創造型の企業を目標として新し

い技術開発を進めているとのことであった。今後は医療市場への製品開発を目指していると話されており、新商品開発に対する本多洋介社長の情熱を強く感じるインタビューであった。

## V. 所見

本プロジェクトを通して各メンバーが実感したことを、以下にまとめる。

### ・堀江光

本プロジェクトでは3人と限られた人数で行わなければならなかった。運営をスムーズにするためにグループ連携を図り、スケジュール管理に留意して活動した。日々の活動では週2回の話し合いの場を設け、プロジェクトの進行状況を報告、今後の活動予定とその担当者を決定した。

活動では迅速にプロジェクトの用件を伝えるため、googleでメールリスト作成を行い、情報共有のためにプロジェクト管理アプリを活用したファイルの共有を図った。進行状況の報告を何度も繰り返し行ったのでスケジュール管理が確実にでき、作業遅れが生じている場合には、すぐにフォローしあえた。ファイルの共有システムを活用することで他のメンバーが持っている情報をすぐに得ることができるため、仕事の効率を改善でき、報告書のまとめ作業においても多めに活用することができた。

グループ連携とスケジュール管理の重要性を実感することができ、この経験を今後の就職活動などに活かしていきたいと思う。

### ・宮崎康平

本プロジェクトでは、色々な企業の上層部の方々とお話ができとても良い経験になった。インタビューの中で、企業の経営陣は、その企業の経営理念などを基本におきつつ、将来性を見据えてその企業種々の企画や方針を検討し、刻々と変化する社会に対応した経営に取り組みされていると認識を深めた。外部から見ただけでは分からなかった経営陣が考える今後の事業展開や、シティープロモーションの考えなどが実際企

業に訪問させていただくことでより詳しく知ることができた。

また本プロジェクトを通して、インタビューを行う際や、プロジェクトメンバーとの意見交換の場で改めてコミュニケーション能力が重要であると認識した。自分の考えを相手に分かりやすく説明できなければ、誤解が生じ、問題が発生する恐れもある。これからは自分の考えを上手くまとめて発言できるように意識していきたい。就職活動での自己PRでも生かしていきたいと思う。

### ・大江澄南

本プロジェクトは、経営者の方に企業の特徴や強みを聞き、豊橋の強みを再確認するプロジェクトである。今回、(株)平松食品、(株)エフエム豊橋、(株)サイエンス・クリエイト、ヤマサちくわ(株)、本多電子(株)にインタビューを行った結果、各企業の特徴や強みが分かり、自分の知らなかった企業の特徴や経営者の方の企業マインドを知る機会になった。今回インタビューを行ったのは5社だが、まだ豊橋には興味深い企業が数多くある。プロジェクトで得た情報収集力を、今後就職活動で企業研究をする際に活かしていきたい。

また、今まで経営者の方と話す機会がなかった分実際にインタビューを行った際に、相手に分かりやすく話しをすることの難しさを実感した。経営者の方が話される内容を理解するためには、その周辺の情報や知識を蓄えておく必要がある。また、敬語の使い方や話しの内容、声の大きさ、相槌や笑顔など、「話をする」ということは色々なことに心配りや気遣いも必要である。相手に分かりやすく伝えられるよう、心がけていきたい。

### 【謝辞】

株式会社平松食品、株式会社エフエム豊橋、株式会社サイエンス・クリエイト、ヤマサちくわ株式会社、本多電子株式会社の皆様には、本プロジェクトを通して多くの御指導や御協力をいただき、お忙しい中大変お世話になりました。この場をお借りして心よりお礼申し上げます。

## 学食広報プロジェクト by 学食おうえん団

### I. プロジェクトメンバー

情報ビジネス学部キャリアデザイン学科3年

- ・20923103 上田 菜々子
  - ・20923106 大野 安佑未
  - ・20923206 加藤 裕加里
  - ・20923218 仁崎 愛美
  - ・20923115 田引 俊佑
  - ・20923209 斎藤 賢太
  - ・21123301 田中 豪
  - ・21123303 中神 駿介
- 担当教員 三輪 多恵子

### II. プロジェクト概要

本プロジェクトでは、学食(キッチン SOZO、カフェテリア)の広報活動を行った。Web や印刷物を通じて学食の情報を積極的に発信することで、学生や教職員の方々に学食をより身近に感じてもらい、利用率の向上を図ることが狙いである。プロジェクト活動を通して、マーケティング、広報活動について理解を深め、様々なコンテンツを企画・制作するための知識と技術を習得することを目的としている。

主な広報活動として、Web による情報発信(PC 用学食サイト、モバイル用学食サイトの運営)、印刷物の作成(ポスター、卓上チラシ)を行った。Web サイトやポスターに掲載する情報は、学食スタッフの方々へインタビューや資料提供をお願いし、様々な面でご協力を頂いた。また、Web サイトでは学食に関していくつかのアンケートを実施中であり、活動終了後に学食の方々へ報告する予定である。

さらに、広報活動への理解を深め、自分たちの活動を客観的に評価するため、広告業界に就職した本学 OB と交流を行った。制作物や活動内容についてのコメントや様々なアドバイスを頂き、また、近年の広告業界の動向などについても興味深いお話を伺うことができた。

### III. 連携先企業

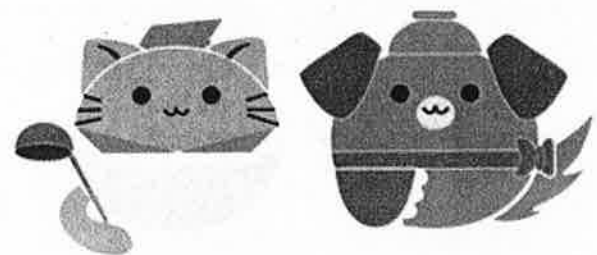
- 日本ゼネラルフード株式会社  
    コントラクト事業本部 杉原 茂雄 様
- 本学「キッチン SOZO」および「カフェテリア」  
    従業員の皆様

### IV. 活動内容

#### IV-1 キャラクタの考案

キャラクタイラストには、見る人に親しみを感じさせる、和ませるという効果がある。この効果を利用し、利用者に親しみを感じてもらうために、キッチン SOZO とカフェテリアそれぞれにイメージキャラクタを制作した。

制作においては、学食で使われる食器のお椀と調理器具のお玉をポイントとして利用することとし、丸い姿で親近感を抱かせ、誰でも描けるようなデザインにした。可愛いらしさを出すためにパステルカラーを使用し、優しく柔らかい色遣いにした。カフェテリアとキッチン SOZO で違いを出すため、2匹を対照的な色にした。また、線を使わないことでより優しいデザインにした。



(a) 考案したキャラクタ (おたま、おわん)



(b) 衣装や小物で季節感を出したキャラクタ

図1 キャラクタの考案

魔法のお椀からやってきたモンスターの「おわん」、お玉を寝床にしている妖精の「おたま」というように、それぞれ設定や性格（キャラクター性）を考え、見た人により親近感を抱かせるように工夫した。また、季節ごとに様々な物を持たせたり、衣装を替えたりして、時候にあったデザインを制作し、月ごとに発行した掲示物（学食だより）に使用した。また、他プロジェクトのサイトへ手筒花火を持ったデザインを提供した。

#### IV-2 Web サイトの構築

インターネット上から手軽に学食の情報を得られる環境を作ることで利便性を向上させ、学食利用者数の増加を目的とし、FC2 無料ホームページを利用して、学食の Web サイト「SOZO 学食.com」を開設した。

PC を対象として作成したサイトには、後述の(1)~(5)のページを設け、さらに(6)に示すアクセス解析機能を持たせた。なお、同時に作成したモバイル用サイトについては、表示速度を優先するため、メニューを中心とした最小限の情報をテキストで提供することとした。

##### (1) トップページ

作成したサイトのトップページには、「お知らせ」として、フェアの情報や土曜営業日のお知らせを見やすい場所に配置した。また、下位層ページへのアクセス向上を図るため、「更新情報」でサイト内の更新履歴を表示した。また、モバイルサイトへのアクセスを誘導する目的で、QR コードの設置を行っている。

##### (2) キッチン SOZO/カフェテリア

メニューページを設けることで、日替わりメニューの献立を PC や携帯電話から確認できるようにした。

PC 用サイトには、キッチン SOZO・カフェテリアそれぞれの一週間分の全メニュー名と値段、小鉢等のセット内容、定番メニューの料理写真を掲載した。モバイル用サイトには、日替わりメニューの内容のみをテキストで一週間分掲載した。



(a) top ページ



(b) アンケートページ



(c) アンケート結果の表示



(d) インタビュー公開

図 2 Web サイト

メニューページを更新するために、1ヶ月分の献立を Excel で電子データ化し、プロジェクトメンバー間で共有することで、共同で更新作業を行った。なお、毎月のメニューは学食スタッフの方から提供して頂いた。

### (3) アンケート

FC2 投票（無料サービス）を利用して、学食に関するアンケートを設置した。アンケート内容は、回答選択式の問いとして「キッチン SOZO で週にどれくらい昼食を食べますか?」「カフェテリアで週にどれくらい昼食を食べますか?」「学食サイトをどのように知りましたか?」の3項目、記述式の問いとして「新メニューを考えてみませんか?」の1項目である。投票結果はインターネット上でユーザーに公開している。

### (4) 学食だより

これまでに発行した“学食だより”全5号と“学食だより増刊号”全2号を、掲示だけでなく手元で閲覧できるよう、PC用サイトに pdf ファイルで掲載した。これにより、掲示が張り替えられた後もバックナンバーが閲覧可能である。

### (5) インタビュー

学食だよりに記述された内容に加え、文字制限により割愛されたため紙面に載らなかったインタビュー内容を「こぼればなし」と称して公開した。「こぼればなし」は PC 用サイトのみで閲覧できる特典である。

### (6) アクセス解析による評価

FC2 アクセス解析（無料サービス）を PC 用サイトの全ページと、モバイル用サイトのトップページで利用した。取得された IP アドレスの情報やページ毎の訪問回数によって、学内外からのアクセス傾向や携帯端末を利用している訪問について調べ、行った広報活動とアクセス増減を連動して見ることで活動の評価に利用する予定である。

## IV-3 掲示物(学食だより)

学生や教職員に学食をより身近なものに感じてもらうことを目的とし、掲示物の制作を行った。内容は主に Web サイトと学食に関する情報を紹

介したものである。掲示物はメンバーで話し合っ  
て「学食だより」という名称とし、ほぼ1ヵ月ごと  
に全5号制作し、A1・A3 サイズの2種を学内に  
掲示した。

第1号はイメージキャラクタと Web サイトの  
始動を中心に紹介し、プロジェクト活動の周知を  
図った。第2号・第3号はインタビュー記事が中  
心の構成になっている。第2号では夏の野菜、第  
3号では秋の味覚を紹介するなど、それぞれの掲  
示期間の季節を感じることでできる内容になっ  
ている。

第4号では学食の人気メニューのランキングを  
紹介した。また、Web サイトに開設したアンケ  
ートの宣伝を第3号、第4号で行い、回答への協  
力を呼びかけた。

最終号となる第5号では Web サイトで行った  
アンケート結果の発表を行った。学食の従業員の  
方への活動協力の謝辞なども掲載し、プロジェ  
クト活動を締めくくる内容になっている。



図3 学食だより

## IV-4 卓上チラシ

学食の Web サイトのアクセス数アップのため  
の宣伝と、サイト内のアンケートの回答数アップ  
を目的とし、卓上チラシとして「学食だより増刊  
号」を制作した。卓上チラシはカフェテリア、キ  
ッチン SOZO の各テーブルに設置し、内容には  
Web サイトのアクセス方法を分かりやすく掲載す

るとともに、モバイルサイトの QR コードも載せ、チラシを見た人が手軽にサイトにアクセスできるようになっている。その他にもその月のオススメメニューも載せ、利用者の増加を図った。

チラシのサイズは、A4 にして見やすい大きさにし、濡れや汚れに強いように、ラミネート加工を行った。

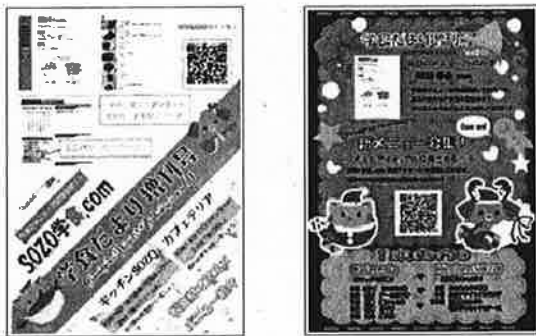


図4 学食だより増刊号

#### IV-5 OB との交流

広告・印刷関連の企業に就職された本学 OB の村瀬友香さんに本プロジェクトについてコメントやアドバイスを頂いた。

制作した Web サイトのアクセス数アップのためには、毎日見に行きたくくなるような内容にすることが重要であり、頻繁に更新をする等の工夫が必要であり、また、Web とチラシの連動や、スマ



図5 OB との交流

ートホンを含めた複数のデバイスで展開することもアクセス数のアップに繋がる、等の貴重なご意見を伺うことができた。

#### V. 所見

##### ・20923103 上田 菜々子

本来私は別のゼミに所属しているが、“広報活動”という内容に興味を持ったため、このプロジェクトに参加した。漠然としか理解してなかった HTML について学習し、WEB ページがどのように記述されているかを詳しく知ることができ、非常に勉強になった。HTML を実際に編集し、HP にアップロードする作業は、普段 WEB デザインに関らない私にとって、大変貴重な体験になったと感じている。興味はあったが今まで使う機会がなかった Photoshop や Illustrator などのソフトウェアに少しだが触れることができた点も良かったと思う。

また、キャラクタや HP の作成過程を近くで見ることができ、その技術やこだわりに関心させられた。何パターンものデザインを考え、色、配置、フォントなど細かな調整に悩み、時間をかけて作り上げるからこそ、いい作品ができるのだとわかった。学食便り作成担当の際にそれを体感し、また、製作の楽しさも知ることができた。

このプロジェクトに関わり多くのことを学ぶことができ、本当に良かったと思う。

##### ・20923106 大野 安佑未

「SOZO 学食.com」開設にあたり、Web サイトを更新し続けることの重要性和難しさを知った。ページの更新が遅れたり、ユーザーが欲しいと思ったタイミングで情報を提供できなかつたりすると、再度アクセスする可能性が減ってしまうことを体感した。管理者全員がスムーズにサイト運営できるよう行ったマニュアル作成を通して、サイト構築の際には作成した本人だけでなくエンドユーザーにも管理しやすい配慮が必要だと学んだ。

また、OB 面談では貴重なお話を伺うことができ、大変勉強になった。なによりユーザー視点で

広告を作成することが重要であると教わった。移り変わる近年のインターネットコンテンツの動向を把握するため、今後は広くアンテナを張り、新しい技術や知識を積極的に取り入れていく姿勢でありたいと思った。

今回のプロジェクトを通して、広報活動の難しさだけでなく、複数人のチームでプロジェクトを進めることの困難や利点について経験をもって学ぶことができた。

・20923206 加藤 裕加里

プロジェクト活動の中でも、私は主に、学食のキャラクタデザインを担当した。

キャラクタは、誰でも描けるような単純さを目指してデザインをした。各キャラの設定も話し合っ て決定をした。使用したソフトウェアは Illustrator である。今まで、Illustrator を使用するの が苦手な避けてきたのだが、キャラクタ製作をきっかけにして勉強しな おすことが出来て良かったと思う。初めのうちはソフトを使い慣れず、苦戦していたが、複数の表情やポーズを製作して いるうちに、少しずつ製作速度が上がっていくことが実感できた。そして、今では Illustrator を楽しく使うことができるようになった。

学食便り 2 号目や卓上チラシでは、その季節にあっ たデザインに変更したキャラクタを作成した。また、卓上チラシでは、全体のデザイン自体も Illustrator で行った。

今まで、好きではなかった Illustrator を好きになれたのはこの機会があっ たからこそである。キャラクタ制作に関わったことは私にとって良い経験だったと思う。

・20923218 仁崎 愛美

プロジェクトの活動でウェブサイトの更新や印刷物を制作することで知識が深まり、作業に関し て自分ができることが多くなっ た。まず、制作したウェブサイトの更新をすることで HTML について実践的に学ぶことができた。チラシの制作でも画像編集ソフトの使い方など、新たに知識とな

ったことは多かっ た。さらに、より良いものを作るためには、これから勉強しなければならないこ とが多いことも実感した。

学校の外部の方との関わりを持つことでコミュニケーションについて意識する機会も多く、正しい話し方や聞く態度で人と接することを学んだ。

また、学食の広報活動や OB 面談を通して、ウェブサイトやチラシなどの広告物は、自分のやりたい事ばかりではなく、実際に見る人からの意識を持って制作することが重要だと学んだ。このことを活かし、相手のことをよく考えて物を作っ ていきたい。

様々な活動のなかで学んだことは多く、それらを今後につなげていきたいと思った。

・20923115 田引 俊佑

私が担当した大きな仕事は、学食から献立表をもらっ てきた際、その電子化を効率化するためのテンプレートの作成、そして、学食便り Vol13 の作成である。

テンプレートの作成は、エクセルで行っ た。一度基本形を作っ た後、どうしたらもっと見やすくなるかを iPad アプリのチャットで相談し、デザインを洗練していった。

学食便りの作成は、同じゼミのメンバーである斎藤と行った。主に私が内容の企画を行い、Illustrator を使える斎藤がデザインを担当した。私がこのプロジェクトで担当した仕事の中では一番大変な作業だったが、完成し、掲示板に掲載した際の達成感は一 としおであった。

私はこのプロジェクト演習で、プロジェクトを企画・実行することのむずかしさ、メンバーと相談することの大切さ、そして、何かを完成させることの感動を学んだ。この感覚を今後も忘れずに、新たな事に挑戦する勇気を持ち続けていきたいと思う。

・20923209 斎藤 賢太

プロジェクトで一番記憶に残っているのはインタビューを行っ たことである。その点について良



かった点と、反省すべき点の2点について書いていきたい。

私は「学食.com」に載せる一言を頂くために、最初のインタビュアーとして職員の方にお話を伺うことになった。私は人と話すことに苦手意識を持っている。しかし、話を聞き始めると楽しくなり、余計なことまで聞いていた。気づいたら一言だけ頂くつもりが10分以上経っていた。

良かった点は、「インタビューは話を聞くことだ」ということに気付いたことだ。話すことへの苦手意識はなくならないが、話を聞き出すのは楽しいと感じた。

反省すべき点は、予定通りに話を進めることが出来なかったことだ。本当はインタビューに5分も時間を頂かないつもりだった。しかし、気づいたら10分以上経っていた。職員の方にも仕事があるので、大変申し訳ない思いだった。反省点も多いが、得るものも多いプロジェクトだった。

#### ・20923209 田中 豪

私が携わった作業で最も印象に残っていることは、11月分の学食だよりの作成である。特に、デザインの考案は自分が元々苦手意識を持っていたことであり、不安な気持ちが大きかった。

私の担当する学食だよりの内容は、学食メニューのランキングに決めた。大変だったのは、印象に残るような見せ方や見やすさ、文字の配置、大きさ等を考える事だった。ほかのメンバーが作った学食だよりの配色や、一般のウェブサイトのランキングデザインを参考にして学食だよりを完成させたときは、自分でもやればできると小さいながら自信になった。しかし、市販されている印刷物と比べると未熟な点が多くあることに気づき、勉強不足を痛感した。

このプロジェクトで企画の立案や情報収集の大変さ、デザインについての勉強不足を知るとともに、苦手意識を持っていることへの挑戦、達成する喜びを知ることができた。これからはこの経験を生かし、さまざまなことに挑戦していきたいと思う。

#### ・21123303 中神 駿介

自分はプロジェクト演習について、反省点が多くある。

まず、連絡事項をちゃんと確認しておらず、初めの授業でキャラクタ案を決めることを知らなかったため、自分だけがデザインを提出できなかったこと。また、インターネットで学食メニュー更新の仕方が分からないときに、詳しい人に聞くことをためらい、締め切り日のギリギリになってしまうこと、等があった。これらは、周りの人たちとの連絡や相談ができていれば避けられた問題であり、現在の自分に足りない点だと思うので今後の課題にしたい。

また、中間発表の時に練習を欠席してしまい、うまく発表することができなかったことが非常に悔しく、またチームの人たちに大きな迷惑をかけたことを反省している。

一方で、プロジェクト終盤に入り、自分が担当した献立表アップロードの情報伝達が、しっかりできた事が成長した点だと考えている。

#### VI. おわりに

プロジェクトを通してメンバーが得たものは多かったが、反省点も多かった。

例を挙げると、HTMLを用いてWebページを運営することによって知識や技術を向上させることができたが、専門性が高い技術であることから上手く運用できる学生に仕事が偏りがちになることが多くなってしまった。プロジェクト運営の難しさをメンバー全員が感じる事ができた。

本プロジェクト活動は年度末まで続ける予定である。Webサイトによる情報発信およびWebサイト上でのアンケートは秋学期の授業期間終了まで継続して行う。期末試験期間終了後、今まで協力していただいた学食スタッフの方々へ成果報告をもって本プロジェクトを終了する。

最後まで気を抜かずに取り組んでいきたい。

# 繊維産業を事例とした就業研究

担当 森田ゼミ

## 1、プロジェクトメンバー

- ・石黒 諒
- ・桜井 宏樹
- ・友田 凌
- ・吉田 敦哉

## 2、プロジェクト概要

繊維産業の製造工程と流通

繊維製品の製造工程見学（繊維製品の川下から川上まで）

- 1) テキシタイル製造の現場リサーチ  
（愛知産業技術研究所）
- 2) アパレル製品の企画と製品戦略  
（ヒロタ株式会社の本社見学）

## 3、視察先

愛知県産業技術研究所，ヒロタ株式会社

## 4、本プロジェクトを通じた全体の内容と活動

- ・最近の新規学卒者雇用状況の把握
- ・採用企業が望む学生像
- ・就職試験に臨む学生の心構えと態度
- ・産業界とは
- ・繊維産業から見た、産業の実態（川上から川下まで）
  - 1) 愛知県産業技術研究所（川下）から見たテキスタイルの実態
  - 2) ヒロタ株式会社（川中・川上）から見たアパレルの実態

## 5、学生の感想

桜井 宏樹

春学期には東三河繊維センターへ行き、繊維がどういった工程で作られていくのかということを学びました。工場の中では、繊維がどれくらいの張力にまで耐えられるかというテストを行っていたり、さまざまな検査が行われていました。

秋学期には総合アパレルメーカーの「ヒロタ」という会社に訪問しました。ヒロタという会社は、服のデザイン、製作までを行っており、デパートやスーパー、専門店等の小売

業者に服を提供することを主に行っています。

1階にはショーケースが置いてあり、その時間は他の企業のお客さんがいなかったために見学することもできました。ヒロタさんの新商品が置かれており、とても綺麗なショーケースで見ているだけで楽しい気分になるようなスペースでした。ゼミ顧問の森田先生をも、「うわあ〜すごいなあ、かっこいいなあ」と唸らせるくらい、素晴らしかったです。

東三河繊維センターへいき、秋にはヒロタさんへ訪問し、物づくりの一連の流れを学ぶことができ、全く知らない部分だったので、学ぶことができてよかったです。

石黒 諒

三河繊維技術センターを訪問して

三河技術センターとは、蒲郡、知多地域を中心に生産されている綿や合繊織物をはじめとする繊維業界に対する技術支援機関として、産地特有の技術に加え、海洋、農業、土木など各種用途に応じた新しい産業用繊維資材の開発に力を注いでいる機関であり、実際に見学したものでは、衣類の繊維の原料の調査、一定の室温と湿度で管理された実験室での繊維の強度実験、大型実験機器で行われていた漁網の強度実験や、織物を織る作業がありました。

繊維技術センターの人が言っていた言葉で非常に印象に残っていて、なおかつ意外だったのは、現在、繊維業界では低価格の中国を中心とした各国の輸入物が多く流通していると聞いて、僕はこの不景気で繊維業界も非常に苦しい状況だと予想しました。しかし実際は、三河繊維技術センター周辺は漁業が盛んであり、漁師さんの命ともいえる漁網が多く注文を受けるそうです。中国製などの輸入品の漁網もあるそうですが、一番の違いは、漁師さんの細かい注文にこたえることにより、漁師さんがより使いやすい漁網を作ることができるからだそうです。僕はこの話を聞き、このような海外からの低価格の輸入品が出回っている繊維業界なども、周辺地域の栄えている業種などに的を絞り、消費者個人個人の意見を取り入れ、その人のニーズに合わせたものを作ることにより、輸入品に負けない商品を作ることができることを知りました。

友田 凌

現在の就職状況について

就職氷河期とも呼ばれている現在では就職活動をしていても就職できない、また、就職できても自分のやりたい仕事に就けないような学生がたくさんいる。

今の日本は属に言う不景気で各企業の業績悪化、そのためによる採用数の絞り込みなどが原因だと思うがそれに対し学生側と企業側の思考の食い違いが就職率を下げている原因の一つだとも思う。

ネットで調べたところ今現在学生の5人に1人は大学を卒業しても進学や進路が定まらないまま卒業している事が分かった。もちろんこういった学生は就職や進学など進路が定ま

っていない為大学を卒業するとニートやフリーターといった肩書になってしまう。  
現に豊橋創造大学情報ビジネス学部の今の4年生は12月に入った今でも就職先が決まってい  
ない方が多くいる。  
今の日本には若い人の力が必要だと思うのでこれらの課題には腰を据えていただきたい。

吉田 敦哉

ヒロタ株式会社を見学して学んだことは、アパレルメーカーは服をデザインから売るま  
で  
の間にとっても長い期間がかかるということです。基本的に1年くらい前から次の流行を予  
測し服のデザインを考えて作るそうです。天気予報士の一言で売れ行きがかなり変化する  
ので予測するのがすごく大変らしいです。バイヤーに1000着欲しいと頼まれても実際  
に買ってくれるのはもっと少なかったり多かったりもするらしいので、どれくらい作るか  
の駆け引きがとても難しいと思いました。

(記録者 桜井 宏樹)

## 炎の祭典支援プロジェクト

### I. プロジェクトメンバー

情報ビジネス学部キャリアデザイン学科

3年 村田政英(リーダー)

3年 大場正義

(2名)

### II. プロジェクト概要

- 炎の祭典・昼の部イベントについて、動画素材を用いて広報することによって同イベントを盛り上げ、地域振興に貢献することを目的とする。具体的には、炎の祭典委員会の取材(イベント制作過程の取材)、広報用動画の作成(委員会動画、本番当日の動画)、および、その Web ページ上での公開を通じて広報する。
- 上記の実践を通じて、様々な知識と経験を獲得する。

### III. 連携先企業

豊橋商工会議所青年部(YEG)

炎の祭典委員会

### IV. 活動内容

炎の祭典支援プロジェクトでは、大きく分けて以下の四つの活動を行った。

- (1) 炎の祭典委員会とアポイントメントと取材
- (2) 広報用動画の作成(取材ビデオの編集)
- (3) Web ページの作成と運用
- (4) 炎の祭典当日の撮影と動画編集・公開

なお、活動の進捗状況管理、メンバー間の意見交換およびファイル共有等には、貸与された iPad を用いてプロジェクト管理アプリを通じて行った。

#### (1) 炎の祭典委員会とアポイントメントと取材

プロジェクトテーマを決定するに当たって、豊橋の地域振興につながる活動が大きな目標と



図1 委員会の様子(豊橋商工会議所)



図2 取材中の様子(ビデオ撮影)

して掲げられた。検討を進めるうち、豊橋市の祭りが議題に上がり、地元の有名な祭りである「炎の祭典」をアピールすることで地域貢献を目指すことを計画した。

調査した結果、豊橋商工会議所青年部において同イベントを運営していることを知り、アポイントメントを取りプロジェクト活動趣旨を説明したところ、取材許可を頂くことができた。その後、豊橋商工会議所の会議室にて炎の祭典委員会のメンバーと顔合わせをし、会議の様子をビデオカメラ・デジタルカメラ・ICレコーダーを用いて記録した。図1・図2に実際の会議の様子および取材中の様子を、表1・表2に取材活動履歴および結果を示す。

表 1 取材活動履歴

日時		取材内容
4月27日	19:00-21:00	顔合わせ
5月23日	19:00-21:00	第2回 炎の祭典委員会
6月02日	19:00-21:00	第3回 炎の祭典委員会
6月07日	13:00-14:00	ダンス部出演依頼
6月14日	19:00-21:00	クイズラリー打ち合わせ
6月23日	19:00-21:00	第4回 炎の祭典委員会
7月05日	19:00-21:00	第5回 炎の祭典委員会
7月22日	19:00-21:00	第6回 炎の祭典委員会 委員長インタビュー
8月04日	19:00-21:00	第7回 炎の祭典委員会
8月31日	19:00-20:30	炎の祭典全体説明会
9月10日	09:30-15:00	炎の祭典



図 3 取材ビデオの編集

表 2 取材結果

	ファイル数	ファイルサイズ
画像	610	2.9 GB
動画	75	132.2 GB

総取材時間：約 19 時間

会議は炎の祭典当日の半年前程から月1回で始まり、本番に近づくにつれて回数を増やしていくことになる。

炎の祭典委員会のメンバーは皆一企業の経営者もしくは社員を取りまとめる役職の方が多く、錚々たるメンバーが行う会議の進行方法は非常に参考になった。他にも、独創的な意見や面白い意見は会議の場では生まれにくいとの体験から、会議後にプライベートで雑談する時間を積極的に取り入れるようにする話や、前年度の炎の祭典計画時にあった数々の痛快なエピソード等を伺うことができた。

## (2) 広報用動画の作成（取材ビデオの編集）

(1)の取材で得た動画を広報用動画として加工するため、本学サポートセンターのPCにて動画編集ソフト「Corel Video Studio Pro X4」を用いて編集作業を行った。なお、作業は学内の編集環境が整った7月から開始した。動画編集作業の様子を図3に示す。

作業の途中段階で、取材データ量が膨大であることから、炎の祭典本番の日までに完成さ

せるためには時間が不足していることが明らかとなった。このため、委員会の取材動画の編集作業を一時中断し、炎の祭典当日の取材および動画編集をし終えた後で再開することに計画を変更した。

## (3) Web ページの作成と運用

動画編集作業と並行して、広報用 Web ページ作成に着手した。当初は作成した動画の掲示先として YouTube などの動画投稿サイトを利用することを検討したが、より広く認知され、かつ炎の祭典を調べようと興味を持った方達に知ってもらうため、専用の Web サイトを構築することとした。

しかし、この頃から Web サイト担当のプロジェクトメンバーが活動できなくなる事態となった。本プロジェクトとしては広報用動画作成を重視していたため、Web サイト構築に関しては担当教員に助力いただき、結果として図4のように広報用サイトを作成し公開した。

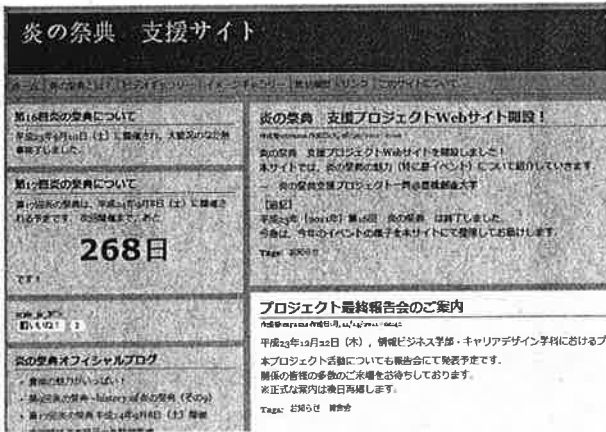


図 4 作成した「炎の祭典 支援サイト」

<http://projectweb.sozo.ac.jp/myamaproj/>

#### (4) 炎の祭典当日の撮影と動画編集・公開

炎の祭典実行委員長の佐野大輔氏に撮影許可を頂き、炎の祭典・昼の部のイベント撮影を行った。撮影は、2 台のビデオカメラを用いてメインステージ撮影担当と周辺イベント撮影担当に分かれて行った。撮影に当たっては、当日会場に来ることが出来なかった人にも会場の様子が伝わるように、さらに、炎の祭典・昼の部を知らない人にもイベント内容や熱気が伝わるようにすることを念頭に置いて行った。当日の様子を図 5・図 6 に示す。

なお、撮影禁止のイベントや一般客の顔のアップ等が映らないように注意しながら撮影を行い、後日の編集段階で動画中に該当する場面があった場合は加工して修正した。動画内容の詳細をチェックしながら編集をするのは非常に時間を必要とするため、授業時間内だけでは到底足りず、休日や空き時間を利用して作業を行った。

編集した「炎の祭典・昼の部」の動画は、前述の「炎の祭典 支援サイト」において公開中である。

#### V. 所見

(村田政英)

本プロジェクトを行って良かったと思える点は、人手と作業時間が足りないながらも Web サイト



図 5 炎の祭典 模擬店風景



図 6 炎の祭典 ビデオ撮影の様子

の構築と編集した動画の掲示が出来たことである。プロジェクト目的として広報をする以上、明確な形を残さないことには意味がないので、必死になって行った。結果として、撮影機器の操作技術と動画編集技術の向上、目上の方と接する際の会話の仕方と幾許かの度胸を身に付けることができた。

本プロジェクトを通じて反省すべき点は、委員会の様子を撮影した動画の編集作業を完了できなかったこと、Web ページ作成と炎の祭典当日の撮影において担当教員にかなりの協力をお願いしてしまったこと、さらに、プロジェクト活動の進捗に応じて次回に行う内容を決める方針だったために、スケジュールがかなり厳しいものになってしまったことである。

1点目は、動画の編集環境を整えることが遅

れてしまったこと、および、活動前期は時間があつたのにも関わらずに動画のプロットを練れなかったことが原因である。2点目と3点目は、プロジェクトメンバーが中盤から一人となり、単純に人手と作業時間が減ってしまって、Web ページ作成等の知識を勉強する事が出来なかったことが主な原因である。

これらの反省点から、簡易的でもよいので活動予定の計画をたてて全タスクの期限を設定し、プロジェクトリーダーとしてメンバーのメンタルや作業の進捗状況を常に気に掛けるなど、メンバーマネジメントを怠らないようにすることが重要であることを学んだ。

### 謝辞

本プロジェクト活動を行うにあたり、炎の祭典実行委員会の皆様、豊橋商工会議所の皆様には大変お世話になりました。心より感謝申し上げます。



## 東三河 Bible

### I. プロジェクトメンバー

情報ビジネス学部キャリアデザイン学科3年

- ・20923101 入江純平
  - ・20923104 宇藤大輔
  - ・20923210 佐野涼平
  - ・20923221 早川明史
  - ・20923222 原田和哉
- 担当教員 吉川優

### II. プロジェクト概要

東三河のグルメ、温泉、観光、祭りについて個々に調べ、4つの資料を合わせてひとつのホームページを作成する。ホームページビルダーを用いて作成し、その上で新たに情報を収集しつつまとめた。

常にお互いを意識して行動することを大切にし、作業に必要なコミュニケーション力の向上を行った。

諸事情により全体の作業に遅れが出たことで、蒲郡クラフトフェアへの出展に間に合わず前回発表した今後の活動予定が大幅に変更となったが、現在はひとつの形として落ち着き、一丸となって作業を進めている。

### III. 連携先企業

株式会社ブレインシティ

### IV. 活動内容

どのようにすれば完成度の高い HP が作成できるのかを個々に考え、意見を交わすことで、お互いを向上し合う。スケジュール確認を怠らず、足りないところは積極的にフォローすることを重点に作業を進めた。

プロジェクトを進行していくにあたり、「HP 作成はこちら側で行うものでなく、〔依頼者の注文に従って作成し、完成したものを見せ、注文を受ける〕の繰り返しでよりよい HP を作成していく。仕事を請け負った企業だけで作業を行っていくもので

なく、依頼者と話し合い、連携をとりながら、完成させていく。」という、前期にお世話になった株式会社ブレインシティでの話を思い出し、意欲的に HP 作成に取り組んだ。

私達は当初 HP 作成にあたり、これらを実施しておらず、各自の作業は任せきりで進んでいた。結果、まとめの作業に入る際に様々なトラブルが発生し、そこで作業がとまってしまった。今期ではリーダーが変わり、作業計画の改善を行ったため、前期よりスムーズに作業が進んだ。しかし、計画の改善に時間を割きすぎたため HP 作成が間に合わず、予定していた蒲郡クラフトフェアへの出展ができなかった。

HP を作成する際に東三河について調べるだけでなく、どうしたら分かりやすく、見やすい HP が作れるのかを調べ、よりよい HP 作りを目指した。

### V. 所見

20923101 入江純平

私は、主に本プロジェクトの中で重点に置かれているコミュニケーションの強化に力を注いだ。

プロジェクトリーダーの変更や全体的な作業のリセット等、大きな問題がいくつかの作業で多発していたが、お互いを意識し、助け合うことでどうにかそれ以上の大きな問題を起こさずに取り戻すことができた。その中で、私はコミュニケーション力の必要性を今まで以上に痛感した。作業のスケジュール確認を怠らないことを心がけてプロジェクトを行ってきたが、その際に互いの意見を交わすことで自分の発想しえなかった意見をメンバーからいくつも受け取った。それに自分の意見をぶつけ、討論し、お互いを尊重しあうとても貴重な経験だっ

たと思う。

まだ、私としては十分な成長・十分なコミュニケーションはできないと自覚している。できなかった事の反省点を挙げれば数え切れないほど出てくるだろう。その反省点をバネにし、この一年間を通して得た情報、知識を今後社会に出た際に発揮できるように残りの大学生活を過ごしていきたい。

20923210 佐野涼平

吉川ゼミでは、ホームページを作り上げるためにそれぞれで調べることを分担した。

私は祭りのことについて調べたのだが、祭りの開催時期が合わず、祭りに足を運べなかったり、インターネットで調べることができず、祭りを開催していたのにもかかわらず祭りに参加できなかったりなどで、祭りのことについてはインターネットからの情報をまとめる程度で終わってしまうことが多かった。情報を集めることの難しさがわかった。

祭りの情報をまとめ、他の項目を担当した人も情報をまとめる作業を終え、情報を一つのホームページにまとめることになった。

ホームページのデザインなどを担当していたのはゼミのチームリーダーなのだが、チームリーダーは途中からゼミにこなくなり、ホームページを作り上げる担当の人は変わった。ホームページの完成が遅くなり、ゼミの資料の提出も遅れてしまった。

突然一人欠けてしまうと、来なくなった人が担当していた箇所の作業が遅れるだけではなく、全体の作業も遅れてしまうことがわかった。

20923221 早川明史

今期のプロジェクトは出だしでプロジェクトリーダーが変更し、ホームページを一からやり直すことになった作業を進めていくにつれて締め切りまでに間に合わなくなったので、東三河のホームページから豊橋市と豊川市をおもに紹介したホームページへの変更をした私は特に力になるこ

とができずホームページの背景や画像探しなどホームページのレイアウトを考えていました。ホームページの作成のほとんどはプロジェクトリーダーがやってくれ私たちはホームページの資料集めくらいしか手伝えなかったのもうしわけない気持ちでした。ある程度できてからは演出に力をいれた、画像にアイコンを持っていくと画像が変わるなどいろいろな演出を取り入れた前期とくらべて、個人の作業が少なかったせいもあるが今期は調べ終わってない人のフォローにはいる事以外の作業はまかせっきりだったので迷惑をかけてしまったと反省している。

2923222 原田和哉

今期のプロジェクト演習では、リーダー変更により、私がリーダーになることになった。そこで、前リーダーが決めていた計画を改善し、前期に収集した情報を基にホームページの作成を行った。

リーダーの変更や計画の改善に時間をとられ、ホームページの作成が間に合わず蒲郡クラフトフェアへの出展ができなかったので反省している。今後は、作業に遅れがでないように気を付けたい。ホームページを作成する際に足りない情報はすぐに調べ、時間があれば現地に行くように心がけた。東三河のすべてを調べるには時間が足りないので、一部しかホームページに乗せられないことが悔やまれる。

急な話とはいえ、リーダーを任されたのだからリーダーとしての自覚を持ち、常に状況把握を心がけなければならないことが分かった。リーダーだからといって他のメンバーにすべてを任せるのではなく、リーダーを中心にメンバー同士が支えあって進めなければプロジェクトは完遂できないと感じた。

この一年を通して得た経験を将来社会で活かしたいと思う。

## 認定試験に受かるための学習環境構築と運営

### I. プロジェクトメンバー

- ・中村恵美
- ・平井千瑛
- ・五味悠一郎先生 (指導教員)

### II. プロジェクト概要

学内外を対象として、診療情報管理士認定試験の自主勉強会と対策講座の企画運営を行なった。また、OB/OG 訪問を行ない、就職活動に役立つ知識の修得や就職先などの開拓も行なった。

### III. 連携先法人

- ・医療法人 元町病院
- ・医療法人 田中会 西尾病院
- ・医療法人 宝美会 総合青山病院
- ・蒲郡市民病院
- ・飯田市立病院
- ・小野田内科
- ・医療法人 栗山会 飯田病院
- ・総合病院 三原赤十字病院
- ・医療法人 鳳紀会 可知病院
- ・東京医科大学 八王子医療センター
- ・鳥取赤十字病院

### IV. 活動内容

本プロジェクトで行なった活動内容は以下の通りである。

- 1) 自主勉強会の企画運営
- 2) 認定試験対策講座の企画運営
- 3) 認定試験対策講座の宣伝
- 4) OB/OG 訪問

本プロジェクトのスケジュールを表 1 に示す。

#### 1. 自主勉強会の企画運営

##### 1.1 方法

自主勉強会の企画運営を行なうため、平成 24 年度認定試験の受験者全員に、実施方法の調査を行った。

##### 1.2 結果

各自で自主的に勉強する方が効率良いということだったので、自主勉強会は止めた。

表 1 プロジェクトスケジュール

日程	内容 (予定含む)
4月5日(火) ~22日(金)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 企画書について話し合う。</li> <li>● 企画書を作る。</li> </ul>
4月25日(月) ~28日(木)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 認定試験対策講座の案内文を作成する。</li> <li>● 企画書を直す。</li> <li>● OB/OG 訪問先を選定する。</li> </ul>
5月3日(木)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● OB/OG 訪問のアポイントを取る。</li> </ul>
6月7日(火)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 元町病院に OB/OG 訪問する。</li> </ul>
6月8日(水) ~30日(木)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 企画書を完成させる。</li> </ul>
7月5日(火)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● OB/OG 訪問報告書を完成させる。</li> <li>● 認定試験対策講座の日程を決定する。</li> </ul>
7月14日(木) ~8月3日(水)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 中間報告書の作成を完了させる。</li> <li>● OB/OG 訪問先の候補を決定する。</li> <li>● 中間発表会の資料作りを完成させる。</li> </ul>
8月9日(火)	中間発表会
8月10日(水) ~9月20日(火)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 自主勉強会の日程を決定する。</li> </ul>
11月26日(土) ~2月11日(土)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 認定試験対策講座の運営する。</li> </ul>
2月12日(日)	● 認定試験当日

#### 2. 認定試験対策講座の企画運営

認定試験の合格率をあげるため、平成 24 年度認定試験の受験者を対象に、認定試験対策講座を実施している。

##### 2.1 方法

行なった作業は、以下の通りである。

- 対策講座の日程を決定した(表 2)。
- 認定試験対策講座を実施している。
- 対策講座を受講した人にアンケート(どこで情報を得たのかなど)を実施する。

表 2 認定試験対策講座の日程(抜粋)

第 1 回 (基礎)	11月26日(土) 13:10~14:40	基礎科目模擬試験 60分、解答・解説30分
第 2 回 (専門)	11月26日(土) 14:50~16:20	専門科目模擬試験 60分、解答・解説30分
第 3 回 (分類)	12月10日(土) 13:10~14:40	分類法模擬試験 90分
第 4 回 (分類)	12月10日(土) 14:50~16:20	分類法模擬試験の解答・ 解説30分、分類法練習問 題60分

2.2 結果

当初の予定通りに、対策講座の運営を滞りなく進められている。

3. 認定試験対策講座の宣伝

3.1 方法

以下の方法で宣伝した。

1) 各医療機関への宣伝

- 案内文の発送先及び件数をキャリアセンターと相談した。
- キャリアセンターが学内向けに公開している医療施設リストから、発送する医療機関を決定した(図1)。
- 医療機関に送る封筒の作成と封入作業を行なった(送付状・対策講座の案内文・申込み用紙など)
- 医療機関に作成した封筒を発送した(図2)。

医療系リスト

医療施設リスト(Excel)

	東三河	西三河	静岡西
医療	東三河医療	西三河医療	静岡西医療
施設	東三河施設	西三河施設	静岡西施設
PT	東三河PT	西三河PT	静岡西PT

図 1 医療施設リスト

2) WEB 上での宣伝

- 新・診療情報管理士を目指し勉強中の方の BBS、アメールモバイルに対策講座の紹介を載せた(図3)。<sup>1)</sup>
- 豊橋創造大学の TOP ページの Topics に対策講座のお知らせを載せた(図4)。

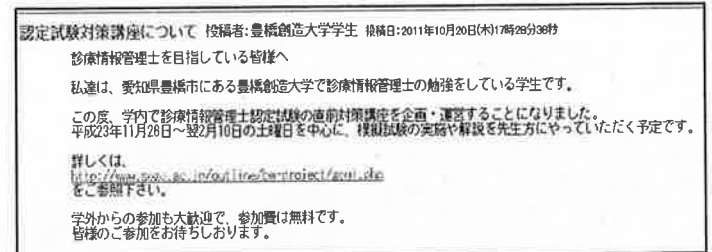


図 3 診療情報管理士を目指し勉強中の方の BBS

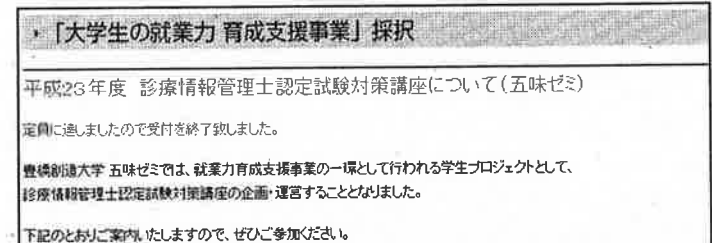


図 4 創造大学 大学生の育成就業力(抜粋)

3.2 結果

以下の効果があった。

- 定員 20 名のところ、22 名の応募があった。
- 実際に参加した人の人数は、11月26日～12月10日までの間で最高14人だった(図5)。
- 様々な所から応募があり、東京都や広島県、鳥取県と遠方からの応募者もいた。
- 去年は外部からの参加者が2名だったので、今年は多くの参加者を集められた。



図 5 対策講座の風景

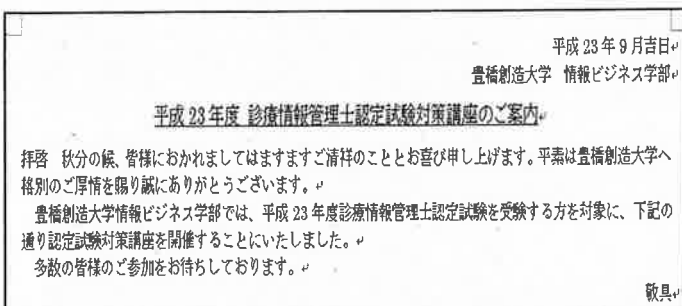


図 2 認定試験対策講座の案内文(抜粋)

### 3.3 検証

外部からの参加者が増えた理由を検証した。

#### 1) 去年

- 近隣医療機関に送付する求人票に同封して、案内文を送付した。
- 求人票の送付先が各医療機関の人事課だった。

#### 2) 今年

- キャリアセンターが学内向けに公開している医療施設リストから、案内状を送る医療機関を選んだ(リストに無かった医療機関も付け加えた)。
- 各医療機関の医事課宛に送った。
- 診療情報管理士を目指している人向けのインターネット掲示板に載せた。

#### 3) まとめ

昨年は潜在的な受講希望者に情報が伝わらなかった。今年は各種媒体を適切に利用したことで、情報が伝わったと考えられる。

## 4. OB/OG 訪問

OB/OG 訪問を行ない、就職活動に役立つ知識の修得や就職先などの開拓も行なった。

### 4.1 方法

以下の作業を行なった。

- キャリアセンターから頂いた OB/OG のいる医療機関のリストから、OB/OG 訪問先を選定した。
- OB/OG 訪問先にアポイントをとるために、電話対応のマニュアルを考えた(図 6)。
- 元町病院にアポイントを取り、訪問する日程を決定した。
- 元町病院へ OB/OG 訪問した。
- OB/OG 訪問の報告書を作成した。

OB 訪問 担当者が出た場合  
私豊橋創造大学 情報ビジネス学部 3年の ○○○○と申します。  
お忙しいところ大変恐れ入りますが  
OB・OG 訪問の件で人事部の○○様 お願い致します。  
(本人がだったら) 大変失礼致しました。  
今回 OB・OG 訪問という形でいくつか質問をさせて頂きたいのですが都合のよろしい日はありますでしょうか?  
○月○日○時 場所○○でございますね。  
ありがとうございました。当日はよろしくお願い致します。  
失礼致します。

図 6 電話対応マニュアル(抜粋)

### 4.2 結果

認定試験対策講座の準備に時間がかかったため、OB/OG 訪問は一つの医療機関だけしか訪問出来なかった。

OB/OG 訪問の様子を図 7 に示す。



図 7 元町病院に OB/OG 訪問

## V. 所見

### A. 中村恵美

秋学期の作業は、一つ一つの仕事がとても大変でした。中でも、封入作業が一番辛かったです。

まず、エクセルで西三河・東三河の医療機関のデータをまとめ、宛名ラベルを作りました。次に対策講座の案内文と申込用紙を各 205 枚ずつ印刷し、送付状も作成して 205 枚印刷し、封筒に入れました。封筒に宛名ラベルとクロネコメール便のシールを貼り、教務課の和田さんに提出しました。

ここまでの作業は順調でしたが、宛名ラベルを貼る場所を間違えていたので全部やり直すことになってしまいました。これを知ったときは気が遠くなったし、決められた期間に終わらないんじゃないかと不安でした。やり直しはとても大変で時間もかかってしまいましたが、対策講座には沢山の人が参加してくれたので良かったです。

B. 平井千瑛

診療情報管理士認定試験を受ける人に講座を知ってもらうためにはどうすれば良いか考え、病院内の診療情報管理士関連の課（医事課）にお知らせをして、試験を受けようと思っている人達が見ている掲示板に案内を載せました。結果、定員より多くの応募があったので、認定試験対策講座の宣伝は成功しました。

各医療機関への送付物作りの中で、郵便メールの封筒作り（宛名シールや郵便シールの張る場所など）を一度失敗し、そのおかげで一般常識を覚える事に繋がりました。普通の学生生活を送っているだけでは体験出来ないことをしたので、自分たちのためにもなりました。

対策講座は 11 月末から始まっており、参加者がスムーズに対策講座を受けられるように誘導の仕方を考え、当日の動きを先生やキャリアセンターの方と相談し、失敗しないように努めました。来年 2 月の試験に向けて、参加者の中から一人でも多くの方が合格できるように、対策講座を運営していこうと思います。

参考文献

- 1) 新・診療情報管理士を目指し勉強中の方の BBS  
<<http://8412.teacup.com/himmezasu2/bbs>> (11/12/15)
- 2) 「診療情報管理 実習生のためのガイドブック」大友達也 編者
- 3) 「大学生の就活編」株式会社 ディスコ